
播磨町
調査結果報告書（抜粋）

令和5年7月

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の実施について	1
(3) 留意点	2
2. 介護・介助が必要になった原因	3
3. 各種リスク判定結果について	5
◆運動器の機能低下リスクの判定	5
◆転倒リスクの判定	5
◆閉じこもりのリスクの判定	6
◆認知機能の低下リスクの判定	6
◆口腔機能の低下リスクの判定	7
4. 健康について	8
(1) 健康状態	8
① 主観的健康感	8
② 主観的幸福感	8
(2) 不安に思っていること	9
5. 地域について	10
(1) 地域の取り組みについて	10
① 地域づくり活動への参加意向	10
② 地域での支え合い・たすけあいについて	12
(2) 認知症について	14
① 地域での認知症に関する状況	14
② 調査対象者や家族が認知症になった時にあればよい支援	15
6. 介護予防について	19
7. 介護保険サービス・介護保険外サービスについて	21
(1) 介護保険サービスについて	21
① 介護保険サービスの満足度	21
(2) あればよいと思う介護保険外のサービス	22
(3) 利用意向の高い支援について	24
(4) 介護人材の確保について	25

8. 将来について	26
(1) 播磨町に充実を希望する高齢者施策について	26
(2) 将来の生活について	29
(3) 介護離職	32
① 介護離職者の有無	32
② 働き方の調整	33
③ 今後の介護と仕事の両立	33
(4) 今後の介護	34
(5) 成年後見制度について	35
(6) 地域包括支援センターについて	36
9. 医療介護連携について	38
(1) 医療との連携について	38
(2) 看取り介護について	40

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、令和6年度から令和8年度までの3年間を計画期間とする「第10次播磨町高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画」の策定にあたり、介護保険事業者の現状等について把握し、今後の播磨町の介護保険事業及び高齢者福祉施策の基礎資料とするために実施したものです。

(2) 調査の実施について

以下の調査を実施しました。

調査種類	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
対象者	播磨町内にお住いの高齢者2,500人 ※対象者：令和4年12月1日現在 (要支援1・2の方と、65歳以上の方 2,230名を無作為抽出)	播磨町内にお住まいの高齢者700人 ※対象者：令和4年12月1日現在 (要支援・要介護認定を受けている65歳 以上の方から無作為抽出)
実施期間	令和4年12月14日(水) ～令和5年1月6日(金)	令和4年12月14日(水) ～令和5年1月6日(金)
実施方法	郵送配布、郵送回収	郵送配布、郵送回収
回収状況	配布数：2,500件 有効回収数：1,443件 有効回答率：57.7%	配布数：700件 有効回収数：382件 有効回答率：54.6%

調査種類	ケアマネジャーに関するアンケート調査
対象者	町内及び町が介護予防ケアマネジメントを委託している居宅介護支援事業者のケアマネジャー
実施期間	令和5年2月21日(火)～3月6日(月)
実施方法	郵送配布、郵送回収
回収状況	配布数：85件(21事業所)(町内16件・町外69件) 有効回収数：53件(町内9件・町外31件・事業所名未記入13件) 有効回答率：62.3%

調査種類	介護保険に関するアンケート調査(介護保険サービス提供事業者調査)
対象者	播磨町内及び近隣市町にて介護保険サービスを提供している事業者
実施期間	令和5年2月21日(火)～3月6日(月)
実施方法	郵送配布、郵送回収
回収状況	配布数：52件(事業所)(町内40件・町外12件) 有効回収数：37件(町内30件・町外7件) 有効回答率：71.2%




※ケアマネジャーに関するアンケート調査、介護保険に関するアンケート調査では、町の独自設問に加え、国から示された3調査(介護人材実態調査、居所変更実態調査、在宅生活改善調査)についても併せて実施した。

※圏域について

圏域	自治会
東部	駅東、古宮第1～3、二子、二子北
西部	古田西、古田東、古田北、神川、大中西、大中団地、大中東、本荘古田南
野添	オリーブハイツ土山、サニーハウス、サンシティ本荘、駅西、土山駅前、五反田、野添高山、新池、新野添、川端、播磨苑、北池、宮ノ裏、宮山、野添県住、鹿の川、城、野添中部、緑ヶ丘、蓮池
南部	リベール播磨南、学園前、学園北、宮西、宮北、石ヶ池、本荘県住、本荘西、本荘中、本荘東、本荘北

(3) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっています。

1. 図表中の「n (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
2. 回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
3. 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
4. 図表中に次のような表示などがある場合は、複数回答を依頼した質問を示しています。
 - ・ MA % (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・ 3 LA % (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
 これ以外の場合は、特に断りがない限り、単一回答（回答選択肢の中からあてはまるものを1つだけ選択する）形式の設問です。
5. 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
6. 表中の  は一番目に多い割合の項目、  は二番目に多い割合の項目、  は三番目に多い割合の項目を示しています。
7. 問番号には調査の種類が判別できるよう記号を付記しています。例：[ニ 問○○]
以下、記号の凡例です。
 - ニ … 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
 - 在 … 在宅介護実態調査
 - ケ … ケアマネジャーに関するアンケート調査
 - 事 … 介護保険に関するアンケート調査（介護保険サービス提供事業者調査）

2. 介護・介助が必要になった原因

● [ニ 問 1.2-1] (介護・介助が必要な方のみ)

介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(〇はいくつでも)

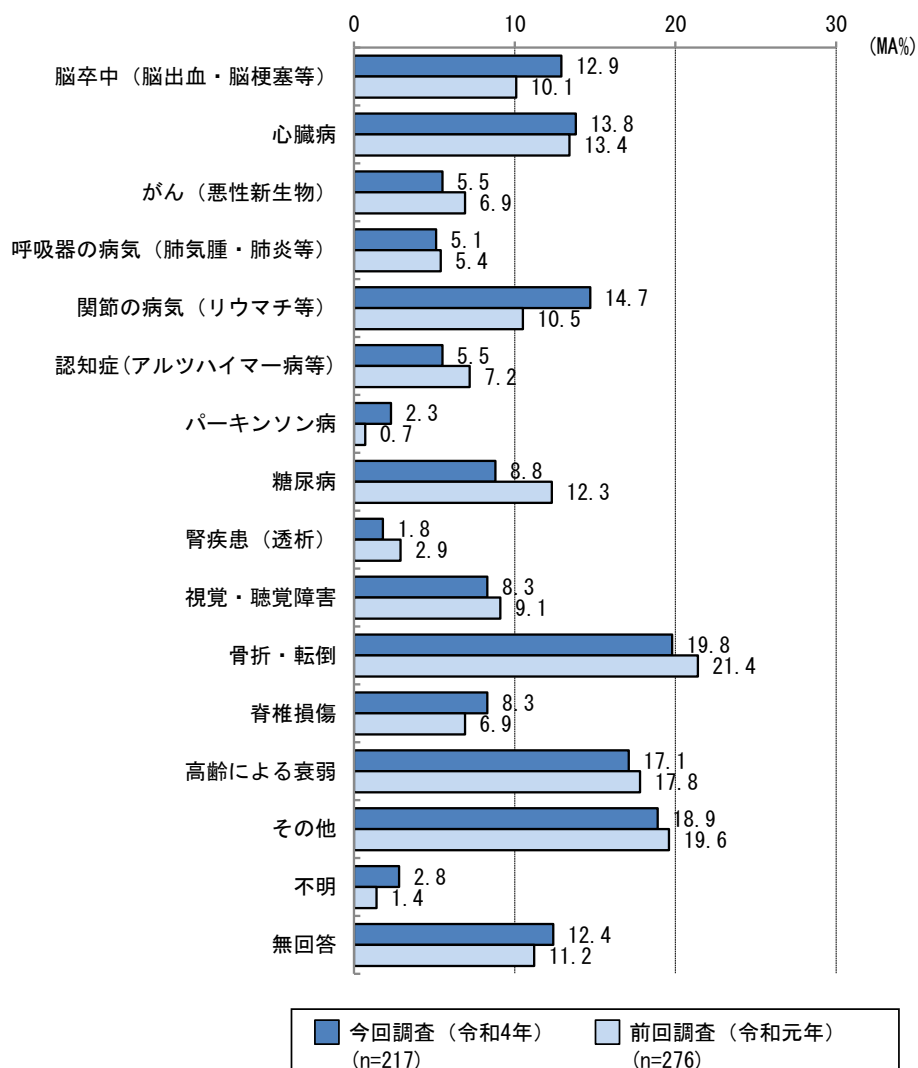
介護・介助が必要になった主な原因は、「骨折・転倒」が19.8%と最も多く、次いで、「高齢による衰弱」が17.1%、「関節の病気(リウマチ等)」が14.7%となっています。

前回調査に比べて、「関節の病気(リウマチ等)」が4.2ポイント、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が2.8ポイント増加し、「糖尿病」が3.5ポイント減少しています。

性・年齢別にみると、男性・前期高齢者では「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が20.0%、男性・後期高齢者では「心臓病」が22.6%と最も多くなっています。女性・前期高齢者では「関節の病気(リウマチ等)」が25.0%、女性・後期高齢者では「骨折・転倒」が27.6%と最も多くなっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「骨折・転倒」が30.0%と多くなっています。

【介護・介助が必要になった主な原因(MA)】



(MA%)

	n	脳卒中 (脳出血・ 脳梗塞等)	心臓病	がん (悪性新 物)	呼吸器の病 気腫・肺炎 (等)	関節の病 気(リウ マチ等)	認知症(ア ルツハ イマ―病 等)	パーキン ソン病	糖尿病	腎疾患 (透析)	視覚・聴 覚障害	骨折・ 転倒	
全体	217 100	28 12.9	30 13.8	12 5.5	11 5.1	32 14.7	12 5.5	5 2.3	19 8.8	4 1.8	18 8.3	43 19.8	
性・ 年齢	男性・前期高齢者	15 100	3 20.0	1 6.7	1 6.7	0 0	2 13.3	0 0	2 13.3	0 0	1 6.7	1 6.7	
	男性・後期高齢者	62 100	11 17.7	14 22.6	4 6.5	5 8.1	9 14.5	4 6.5	1 1.6	9 14.5	1 1.6	4 6.5	7 11.3
	女性・前期高齢者	24 100	3 12.5	3 12.5	2 8.3	2 8.3	6 25.0	1 4.2	1 4.2	2 8.3	0 0	1 4.2	3 12.5
	女性・後期高齢者	116 100	11 9.5	12 10.3	5 4.3	4 3.4	15 12.9	7 6.0	3 2.6	6 5.2	3 2.6	12 10.3	32 27.6
圏 域	東部	33 100	4 12.1	2 6.1	3 9.1	1 3.0	8 24.2	3 9.1	1 3.0	2 6.1	0 0	1 3.0	6 18.2
	西部	34 100	2 5.9	5 14.7	3 8.8	4 11.8	4 11.8	1 2.9	2 5.9	0 0	3 8.8	4 11.8	
	野添	74 100	13 17.6	9 12.2	3 4.1	2 2.7	4 5.4	2 2.7	2 2.7	7 9.5	3 4.1	5 6.8	16 21.6
	南部	76 100	9 11.8	14 18.4	3 3.9	4 5.3	16 21.1	3 3.9	1 1.3	8 10.5	1 1.3	9 11.8	17 22.4
認 定 状 況	一般高齢者	93 100	12 12.9	11 11.8	4 4.3	3 3.2	10 10.8	9 9.7	2 2.2	11 11.8	1 1.1	9 9.7	8 8.6
	要支援1、2	110 100	14 12.7	17 15.5	7 6.4	6 5.5	20 18.2	3 2.7	3 2.7	8 7.3	3 2.7	8 7.3	33 30.0

	脊 椎 損 傷	高 齢 に よ る 衰 弱	そ の 他	不 明	無 回 答	
全体	18 8.3	37 17.1	41 18.9	6 2.8	27 12.4	
性・ 年齢	男性・前期高齢者	0 0	1 6.7	3 20	1 6.7	2 13.3
	男性・後期高齢者	4 6.5	12 19.4	6 9.7	1 1.6	7 11.3
	女性・前期高齢者	3 12.5	0 0	5 20.8	0 0	3 12.5
	女性・後期高齢者	11 9.5	24 20.7	27 23.3	4 3.4	15 12.9
圏 域	東部	2 6.1	3 9.1	6 18.2	1 3.0	3 9.1
	西部	4 11.8	2 5.9	8 23.5	2 5.9	6 17.6
	野添	6 8.1	16 21.6	10 13.5	3 4.1	10 13.5
	南部	6 7.9	16 21.1	17 22.4	0 0	8 10.5
認 定 状 況	一般高齢者	8 8.6	13 14.0	15 16.1	4 4.3	18 19.4
	要支援1、2	10 9.1	22 20.0	22 20	2 1.8	6 5.5

3. 各種リスク判定結果について

◆運動器の機能低下リスクの判定

●リスク判定方法

以下の5問中、3問以上該当する選択肢を回答している場合を「該当」としています。

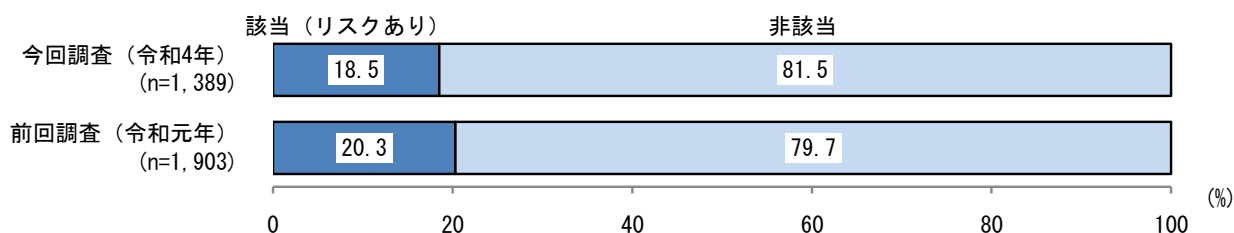
問2	1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
	2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
	3	15分位続けて歩いていますか。	3. できない
	4	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
	5	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

「該当（リスクあり）」が18.5%、「非該当」が81.5%となっています。

前回調査に比べて、「該当（リスクあり）」は1.8ポイント減少しています。

「該当（リスクあり）」は女性・後期高齢者で34.7%、要支援認定者で75.9%と多くなっています。

【運動器の機能低下リスク】



◆転倒リスクの判定

●リスク判定方法

以下の設問で該当する選択肢を回答している場合を「該当」としています。

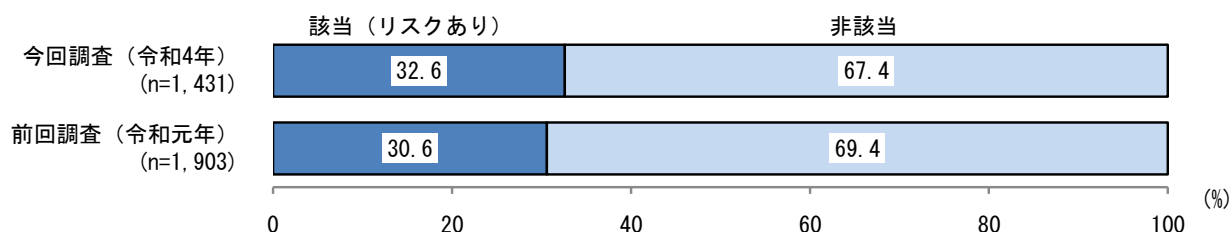
問2	4	過去1年間に転んだ経験がありますか。	3. 何度もある 4. 1度ある
----	---	--------------------	---------------------

「該当（リスクあり）」が32.6%、「非該当」が67.4%となっています。

前回調査に比べて、「該当（リスクあり）」は2.0ポイント増加しています。

「該当（リスクあり）」は要支援認定者で62.0%と多くなっています。

【転倒リスク】



◆閉じこもりのリスクの判定

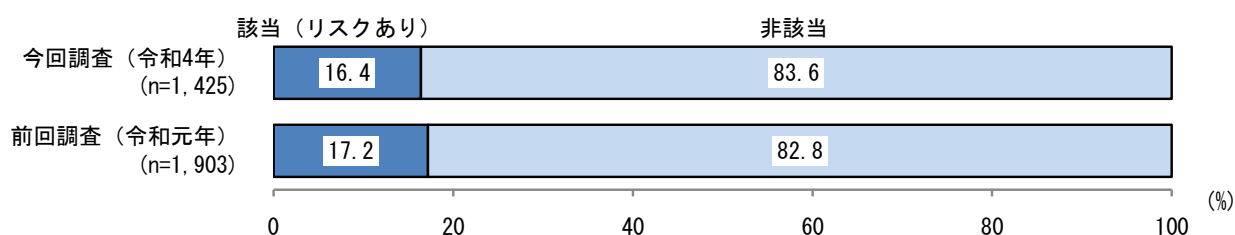
●リスク判定方法

以下の設問で該当する選択肢を回答している場合を「該当」としています。

問 2	6	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回
-----	---	------------------	------------------------

「該当（リスクあり）」が16.4%、「非該当」が83.6%となっています。
 前回調査に比べて、「該当（リスクあり）」は0.8ポイント減少しています。
 「該当（リスクあり）」は要支援認定者で44.9%と多くなっています。

【閉じこもりのリスク】



◆認知機能の低下リスクの判定

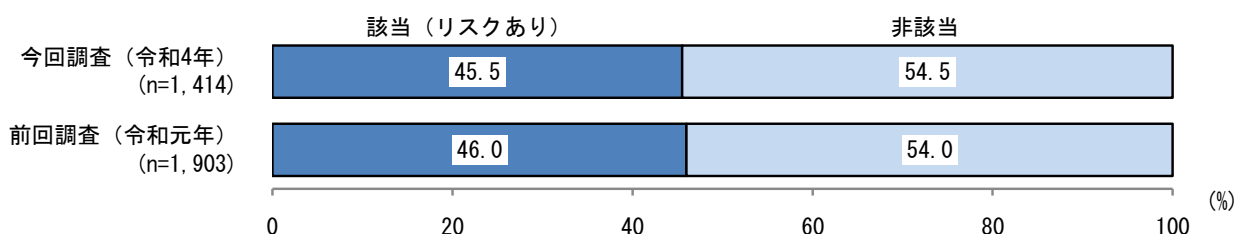
●リスク判定方法

以下の設問で該当する選択肢を回答している場合を「該当」としています。

問 4	1	物忘れが多いと感じますか。	1. はい
-----	---	---------------	-------

「該当（リスクあり）」が45.5%、「非該当」が54.5%となっています。
 前回調査に比べて、「該当（リスクあり）」は0.5ポイント減少しています。
 「該当（リスクあり）」は要支援認定者で57.0%と多くなっています。

【認知機能の低下リスク】



◆口腔機能の低下リスクの判定

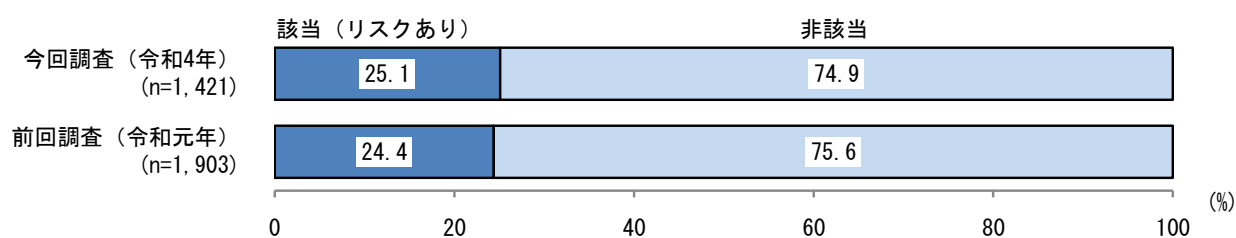
●リスク判定方法

以下の3問中、2問以上該当する選択肢を回答している場合を「該当」としています。

問3	2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
	3	お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
	4	口の渇きが気になりますか。	1. はい

「該当（リスクあり）」が25.1%、「非該当」が74.9%となっています。
前回調査に比べて、「該当（リスクあり）」は0.7ポイント増加しています。
「該当（リスクあり）」は要支援認定者で41.2%と多くなっています。

【口腔機能の低下リスク】



4. 健康について

(1) 健康状態

① 主観的健康感

- [ニ 問 7.1] 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

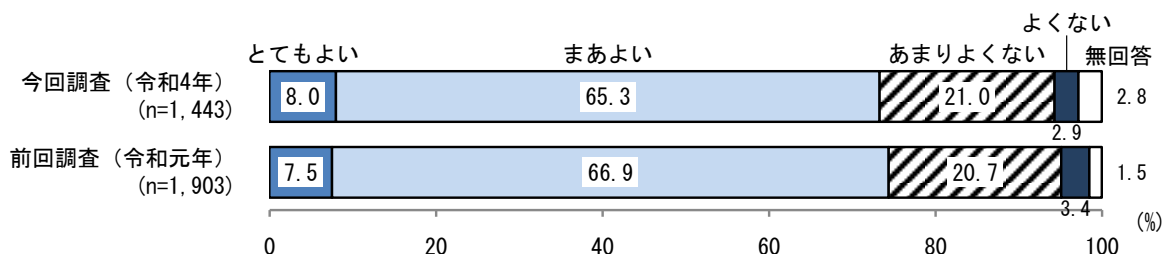
現在の健康状態については、「とてもよい」(8.0%)と「まあよい」(65.3%)を合わせた『よい』が合計73.3%、「よくない」(21.0%)と「あまりよくない」(2.9%)を合わせた『よくない』が合計23.9%となっています。

前回調査に比べて、『よい』は1.1ポイント減少しています。

性・年齢別にみると、女性・前期高齢者で『よい』は85.1%と多く、男女ともに後期高齢者では『よくない』が多く、男性・後期高齢者で29.9%、女性・後期高齢者で29.8%となっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では、『よい』が41.9%と少なく、『よくない』が52.3%と多くなっています。

【主観的健康感】



② 主観的幸福感

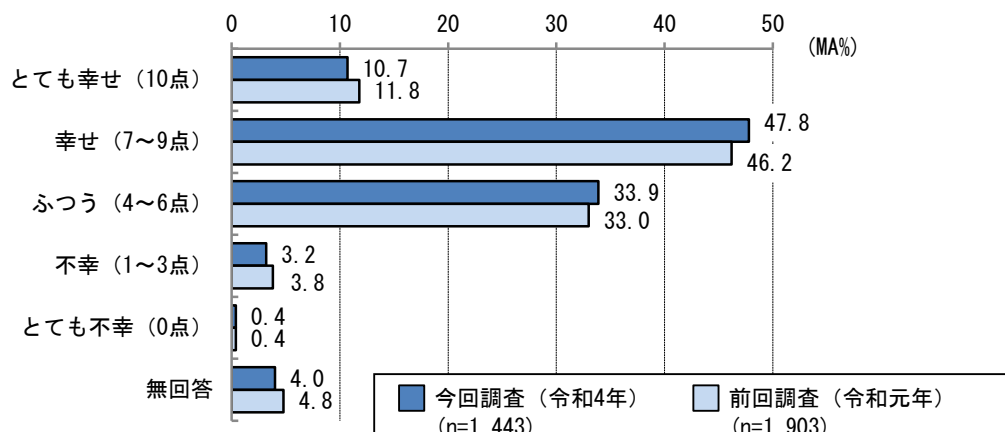
- [ニ 問 7.2] あなたは、現在どの程度幸せですか。(○は1つ)

現在の幸福感を10点満点で評価してもらったところ、「幸せ(7~9点)」が47.8%と最も多く、次いで、「ふつう(4~6点)」が33.9%、「とても幸せ(10点)」が10.7%、「不幸(1~3点)」が3.2%、「とても不幸(0点)」が0.4%となっています。

前回調査に比べて、「幸せ(7~9点)」が1.6ポイント増加し、「とても幸せ(10点)」が1.1ポイント減少しています。

「8点」の回答が最も多くなっている層が多いなか、性・年齢別には男性・後期高齢者では「5点」が20.7%と最も多く、認定状況別には要支援認定者で「5点」が23.5%と最も多くなっています。

【主観的幸福感】



(2) 不安に思っていること

- [二 問 7.8] 現在、不安に思っていることがありますか。(〇はいくつでも)

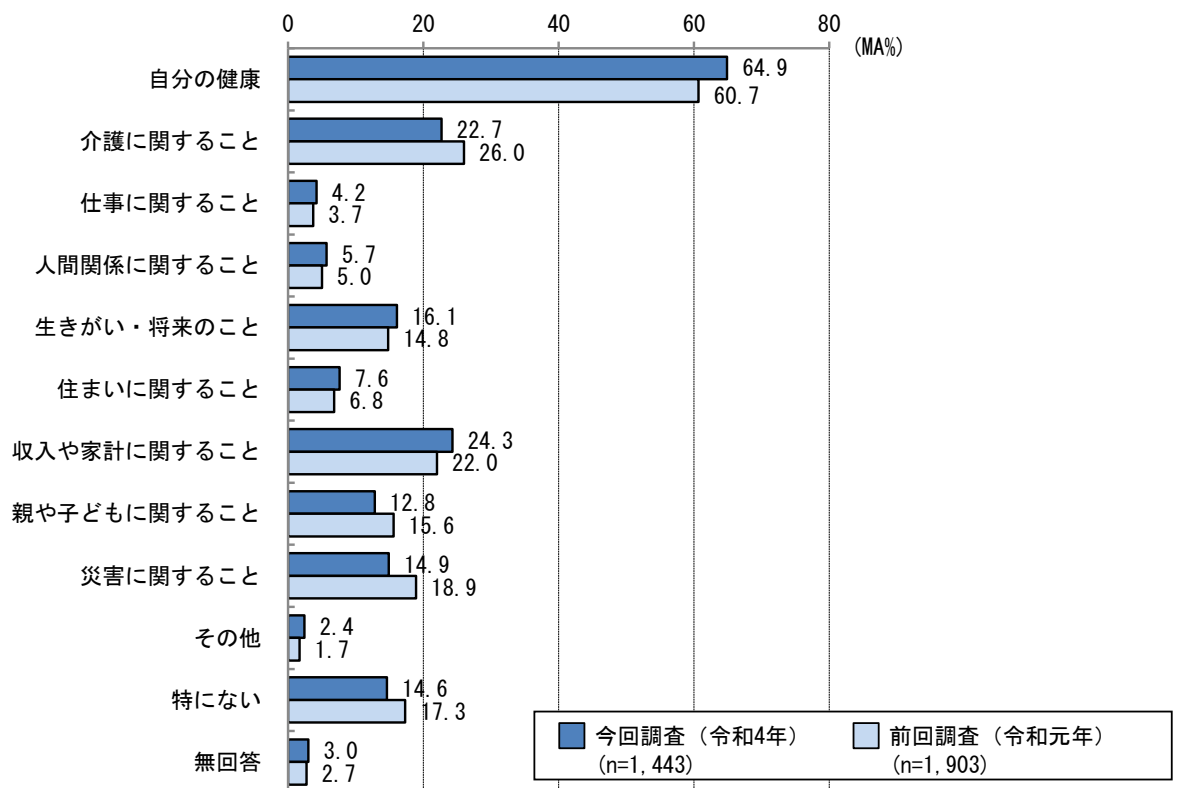
現在、不安に思っていることについては、「自分の健康」が64.9%と最も多く、次いで、「収入や家計に関すること」が24.3%、「介護に関すること」が22.7%となっています。

前回調査に比べて、「自分の健康」が4.2ポイント増加しています。

性・年齢別にみると、「収入や家計に関すること」は男女ともに前期高齢者で多く、男性32.4%、女性27.9%となっています。「介護に関すること」は男女ともに後期高齢者で多く、男性21.8%、女性31.0%となっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では、「自分の健康」が80.4%、「介護に関すること」が39.9%と多くなっています。

【現在、不安に思っていること(MA)】



		n	自分の健康	介護に関する	仕事に関する	人間関係に関する	生きがい・将来	住まいに関する	収入や家計に関する	親や子どもに関する	災害に関する	その他	特にない	無回答
全体		1443	936	327	61	82	233	110	350	185	215	34	210	43
		100	64.9	22.7	4.2	5.7	16.1	7.6	24.3	12.8	14.9	2.4	14.6	3.0
性・年齢	男性・前期高齢者	312	197	55	40	13	57	29	101	50	39	4	45	6
		100	63.1	17.6	12.8	4.2	18.3	9.3	32.4	16.0	12.5	1.3	14.4	1.9
	男性・後期高齢者	348	221	76	6	26	56	24	63	44	48	11	58	12
		100	63.5	21.8	1.7	7.5	16.1	6.9	18.1	12.6	13.8	3.2	16.7	3.4
	女性・前期高齢者	348	210	61	13	18	47	27	97	55	52	9	56	8
		100	60.3	17.5	3.7	5.2	13.5	7.8	27.9	15.8	14.9	2.6	16.1	2.3
認定状況	女性・後期高齢者	435	308	135	2	25	73	30	89	36	76	10	51	17
		100	70.8	31.0	0.5	5.7	16.8	6.9	20.5	8.3	17.5	2.3	11.7	3.9
	一般高齢者	1263	793	258	56	69	204	90	311	172	188	23	197	39
	100	62.8	20.4	4.4	5.5	16.2	7.1	24.6	13.6	14.9	1.8	15.6	3.1	
	153	123	61	3	12	24	16	31	13	21	7	11	3	
	100	80.4	39.9	2.0	7.8	15.7	10.5	20.3	8.5	13.7	4.6	7.2	2.0	

5. 地域について

(1) 地域の取り組みについて

① 地域づくり活動への参加意向

- [ニ 問 5.2、問 5.3] 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として、または企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（それぞれ○は1つ）

参加者としての参加意向

地域の会・グループ活動等への参加者としての参加意向については、「是非参加したい」、「参加してもよい」と、「既に参加している」を合わせた『参加意向あり』は合計 56.2%となっています。前回調査に比べて、『参加意向あり』は 6.8 ポイント増加しています。

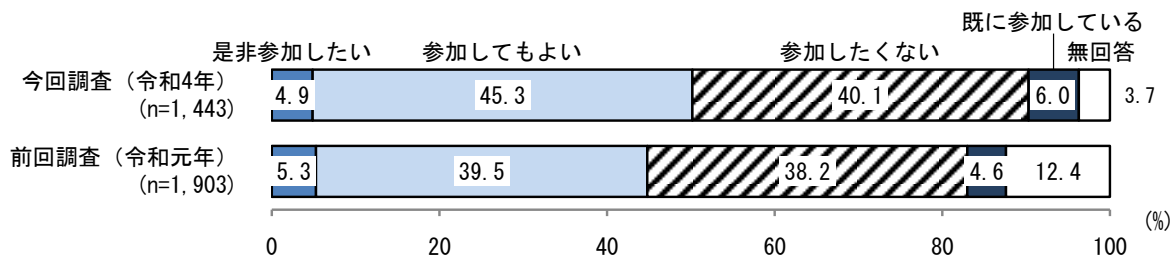
性・年齢別にみると、『参加意向あり』は女性・前期高齢者で 61.4%と多くなっています。圏域別にみると、『参加意向あり』は野添で 59.2%と多くなっています。

企画・運営（お世話役）としての参加意向

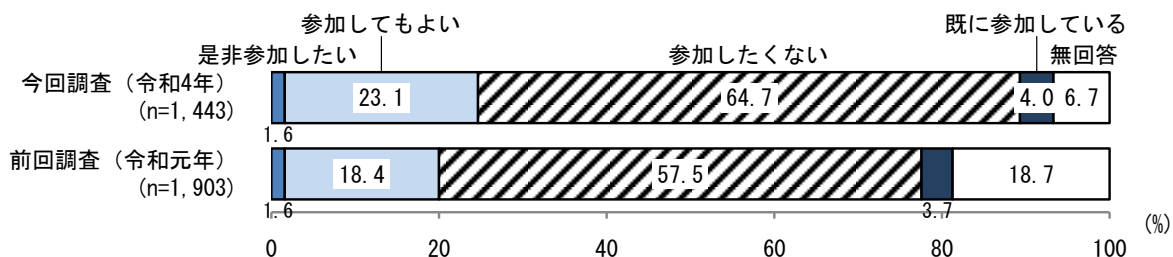
地域の会・グループ活動等への企画・運営（お世話役）としての参加意向は、「是非参加したい」、「参加してもよい」と、「既に参加している」を合わせた『参加意向あり』は合計 28.7%となっています。

性・年齢別にみると、『参加意向あり』は男性・前期高齢者で 32.3%、男性・後期高齢者で 30.5%と多くなっています。

【参加者としての参加意向】



【お世話役としての参加意向】



● [ニ 問 5.3-1] (参加できる方・参加している方のみ)

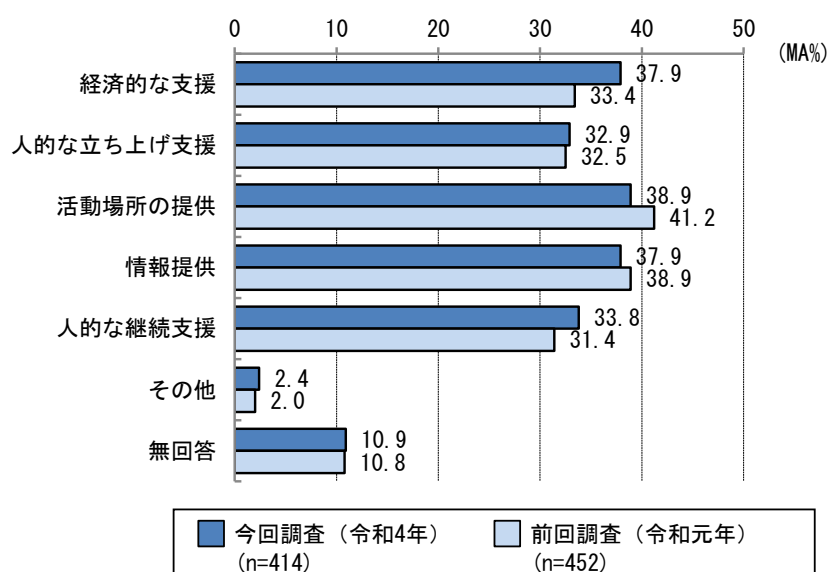
地域住民の有志による地域づくりを新たに始める場合、どのような支援があると良いと思いますか。(〇はいくつでも)

地域住民の有志による地域づくりに必要な支援は、「活動場所の提供」が38.9%と最も多く、次いで、「経済的な支援」、「情報提供」がそれぞれ37.9%となっています。

前回調査に比べて、「経済的な支援」が4.5ポイント増加しています。

圏域別にみると、「活動場所の提供」は西部で42.4%、南部で39.7%と多く、「情報提供」は西部で42.4%、野添で40.6%と多く、「経済的な支援」は東部で42.1%、西部で42.4%と多くなっています。

【地域づくりを新たに始める場合あると良い支援(MA)】



② 地域での支え合い・たすけあいについて

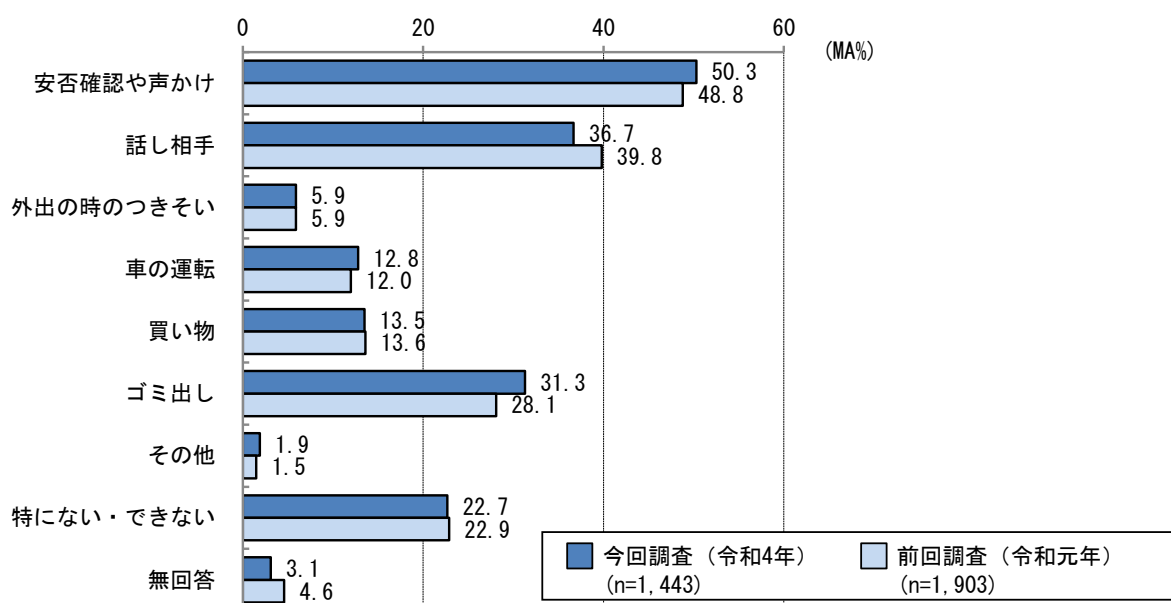
- [二問 5.6] 近所の人困っている時に、あなたご自身が支援できることはありますか。
(○はいくつでも)

近所の人困っている時に支援できることについては、「安否確認や声かけ」が50.3%と最も多く、次いで、「話し相手」が36.7%、「ゴミ出し」が31.3%となっています。

前回調査に比べて、「ゴミ出し」が3.2ポイント増加し、「話し相手」が3.1ポイント減少しています。

性・年齢別にみると、男性は前期高齢者、後期高齢者ともに「車の運転」が2割前後と、女性に比べて多くなっています。女性は前期高齢者、後期高齢者ともに「話し相手」が4割台と男性に比べて多く、また、女性・前期高齢者は「安否確認や声かけ」、「買い物」、「ゴミ出し」など多くの項目で他の区分より多くなっています。

【近所の人困っている時にできる支援(MA)】



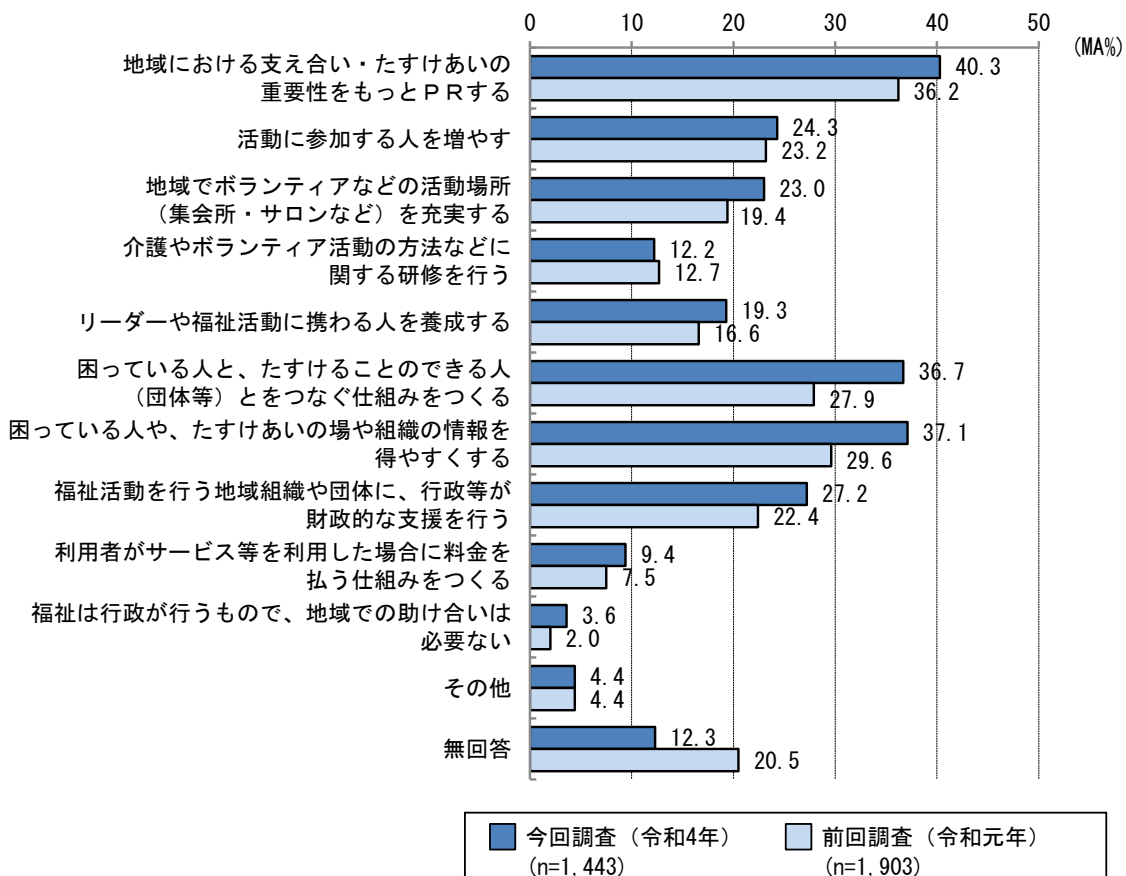
- [ニ 問 6.8] 超高齢社会を迎え、地域において支え合い・たすけあいが重要となっています。地域組織・NPO・各種ボランティア団体などによる高齢者福祉活動を盛んにするためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

地域組織・NPO・各種ボランティア団体などによる高齢者福祉活動を盛んにするために必要なことについては、「地域における支え合い・たすけあいの重要性をもっとPRする」が40.3%と最も多く、次いで、「困っている人や、たすけあいの場や組織の情報を得やすくする」が37.1%、「困っている人と、たすけることのできる人(団体等)とをつなぐ仕組みをつくる」が36.7%となっています。

前回調査に比べて、「困っている人と、たすけることのできる人(団体等)とをつなぐ仕組みをつくる」が8.8ポイント、「困っている人や、たすけあいの場や組織の情報を得やすくする」が7.5ポイント増加しています。

性・年齢別にみると、女性・前期高齢者で、「困っている人や、たすけあいの場や組織の情報を得やすくする」が44.8%、「困っている人と、たすけることのできる人(団体等)とをつなぐ仕組みをつくる」が42.0%と、他の区分に比べて多くなっています。

【地域組織・NPO・各種ボランティア団体などによる高齢者福祉活動を盛んにするために必要なこと(MA)】



(2) 認知症について

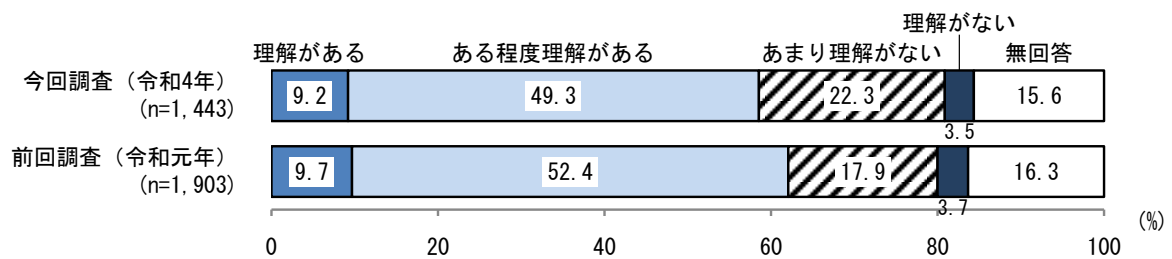
① 地域での認知症に関する状況

- [ニ 問 5.5] お住まいの地域は認知症の高齢者に対して理解があると感じますか。
(○は1つ)

お住まいの地域は認知症の高齢者に対して理解があるかについては、「理解がある」(9.2%)と「ある程度理解がある」(49.3%)を合わせた『理解がある』が合計58.5%となっています。

性・年齢別にみると、『理解がある』は女性・前期高齢者で61.2%と、他の区分に比べて多くなっています。圏域別にみると、『理解がある』は西部で61.6%と、その他の圏域に比べて多くなっています。

【地域での認知症高齢者に対する理解度】



② 調査対象者や家族が認知症になった時にあればよい支援

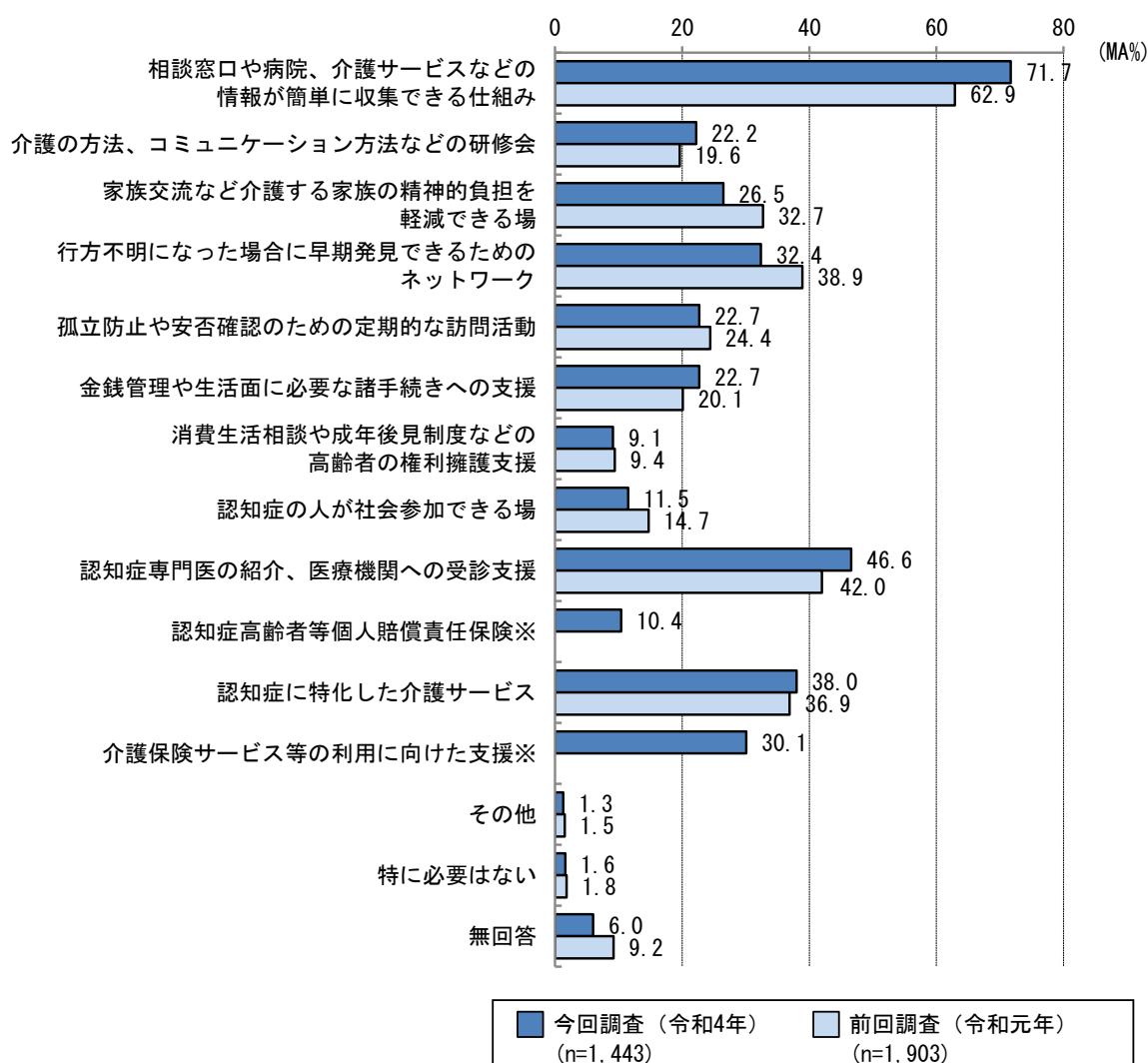
- [ニ 問 8.5] ご自身や家族が認知症になった時、どのような支援があればよいと思いますか。
(○はいくつでも)

認知症に関する支援については、「相談窓口や病院、介護サービスなどの情報が簡単に収集できる仕組み」が71.7%と最も多く、次いで、「認知症専門医の紹介、医療機関への受診支援」が46.6%、「認知症に特化した介護サービス」が38.0%となっています。

前回調査に比べて、「相談窓口や病院、介護サービスなどの情報が簡単に収集できる仕組み」が8.8ポイント増加し、「行方不明になった場合に早期発見できるためのネットワーク」が6.5ポイント、「家族交流など介護する家族の精神的負担を軽減できる場」が6.2ポイント減少しています。

性・年齢別にみると、男性・前期高齢者では、「介護の方法、コミュニケーション方法などの研修会」(27.6%)、「行方不明になった場合に早期発見できるためのネットワーク」(37.8%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続きへの支援」(31.1%)などで、他の層よりも多くなっています。女性・前期高齢者では、「相談窓口や病院、介護サービスなどの情報が簡単に収集できる仕組み」(75.0%)、「家族交流など介護する家族の精神的負担を軽減できる場」(29.9%)、「孤立防止や安否確認のための定期的な訪問活動」(27.0%)、「認知症に特化した介護サービス」(46.0%)が他の層よりも多くなっています。

【自身や家族が認知症になった時あればよい支援(MA)】



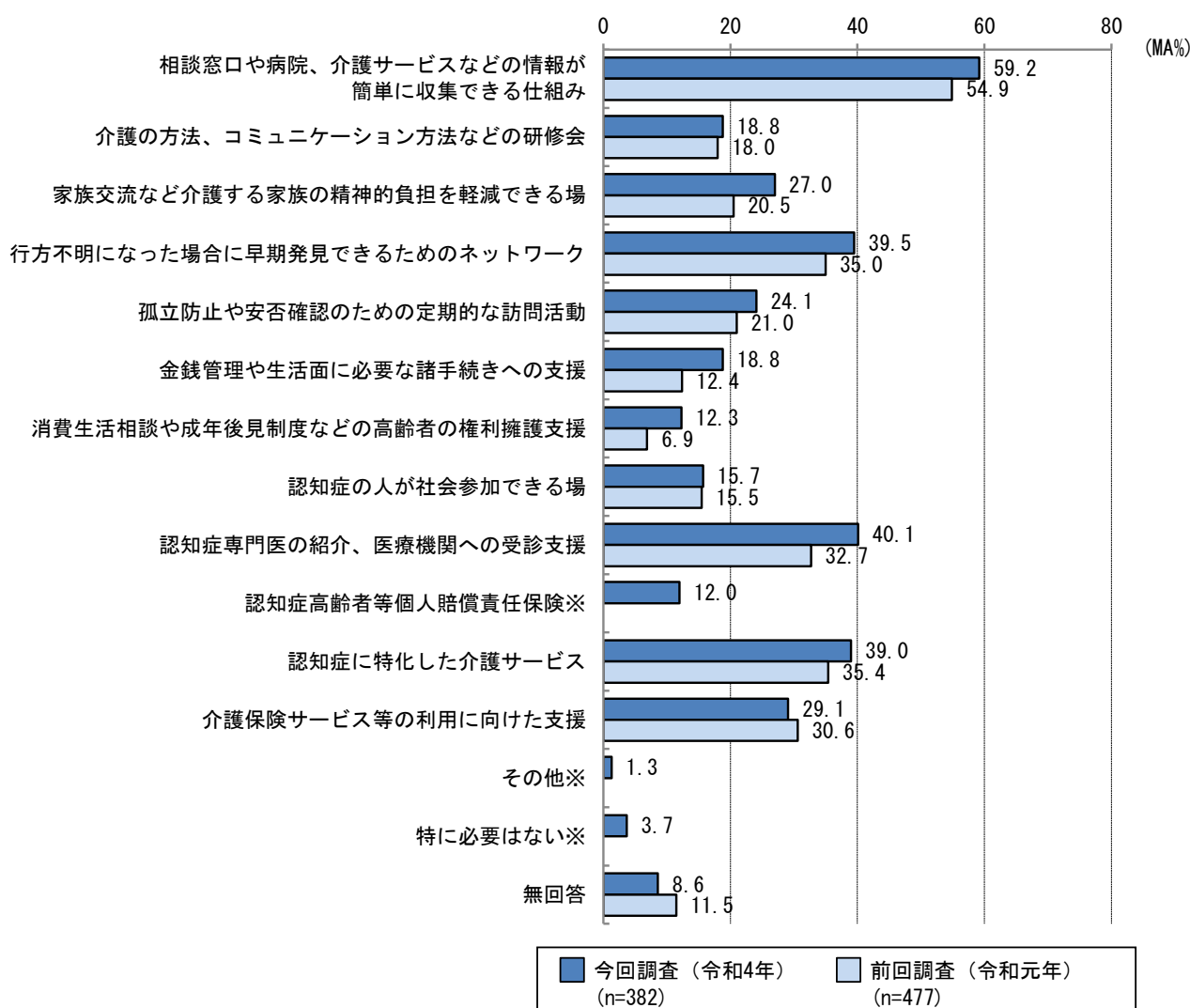
- [在 問 20] 調査の対象者や家族が認知症になった時に、どのような支援があればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

認知症になった時にあればよい支援については、「相談窓口や病院、介護サービスなどの情報が簡単に収集できる仕組み」が59.2%と最も多く、次いで、「認知症専門医の紹介、医療機関への受診支援」が40.1%、「行方不明になった場合に早期発見できるためのネットワーク」が39.5%となっています。

前回調査に比べて、「認知症専門医の紹介、医療機関への受診支援」が7.4ポイント、「家族交流など介護する家族の精神的負担を軽減できる場」が6.5ポイント、「金銭管理や生活面に必要な諸手続きへの支援」が6.4ポイント増加しています。

要介護度別にみると、要介護1、2では「介護の方法、コミュニケーション方法などの研修会」が24.6%、「行方不明になった場合に早期発見できるためのネットワーク」が47.0%と他の区分に比べて多く、要介護3以上では「認知症に特化した介護サービス」が47.7%と多くなっています。また、世帯類型別には単身世帯で、「金銭管理や生活面に必要な諸手続きへの支援」が23.5%と他の区分に比べて多くなっています。

【調査対象者や家族が認知症になった時にあればよい支援(MA)】

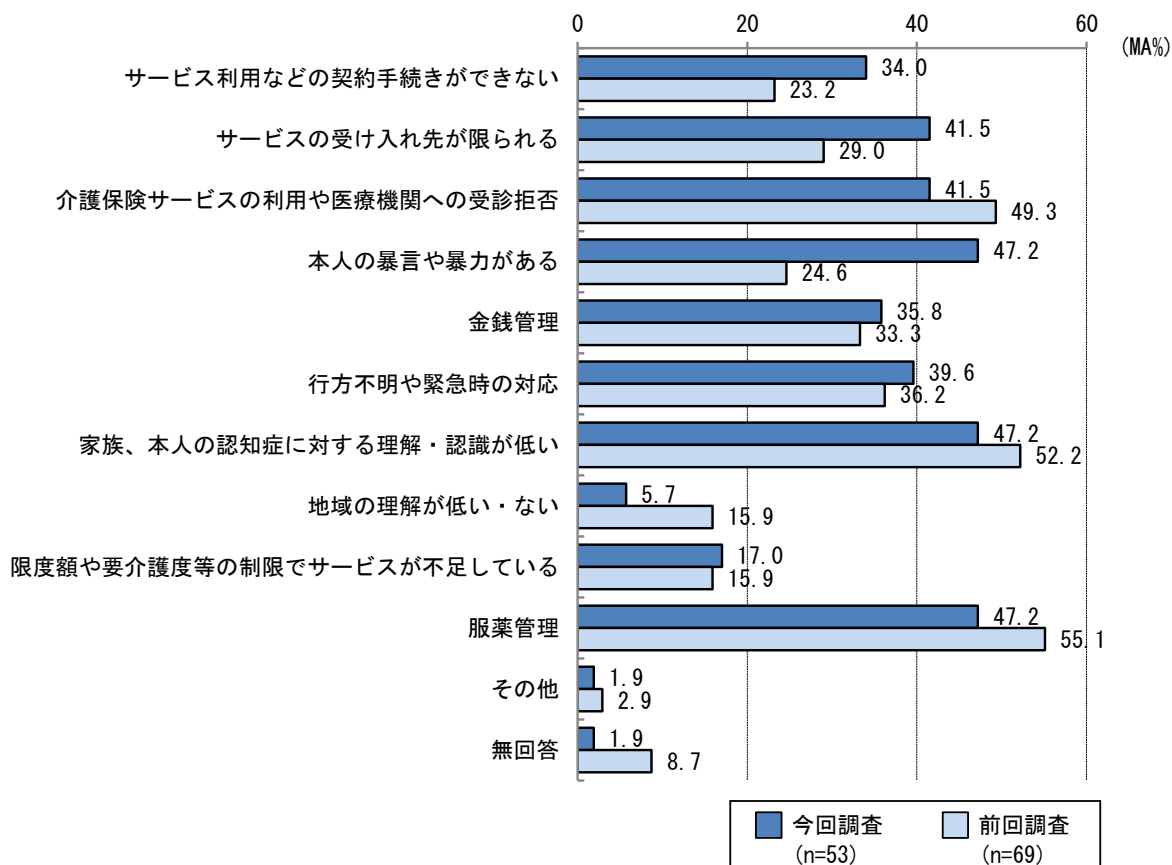


- [ケ 問 12] 認知症高齢者への支援において、困っていること（困ったこと）はありますか。（〇はいくつでも）

認知症高齢者への支援で困ることについては、「本人の暴言や暴力がある」、「家族、本人の認知症に対する理解・認識が低い」、「服薬管理」がそれぞれ47.2%となっています。

前回調査に比べて、「本人の暴言や暴力がある」が22.6ポイント、「サービスの受け入れ先が限られる」が12.5ポイント、「サービス利用などの契約手続きができない」が10.8ポイント増加しています。

【認知症高齢者への支援における困難(MA)】

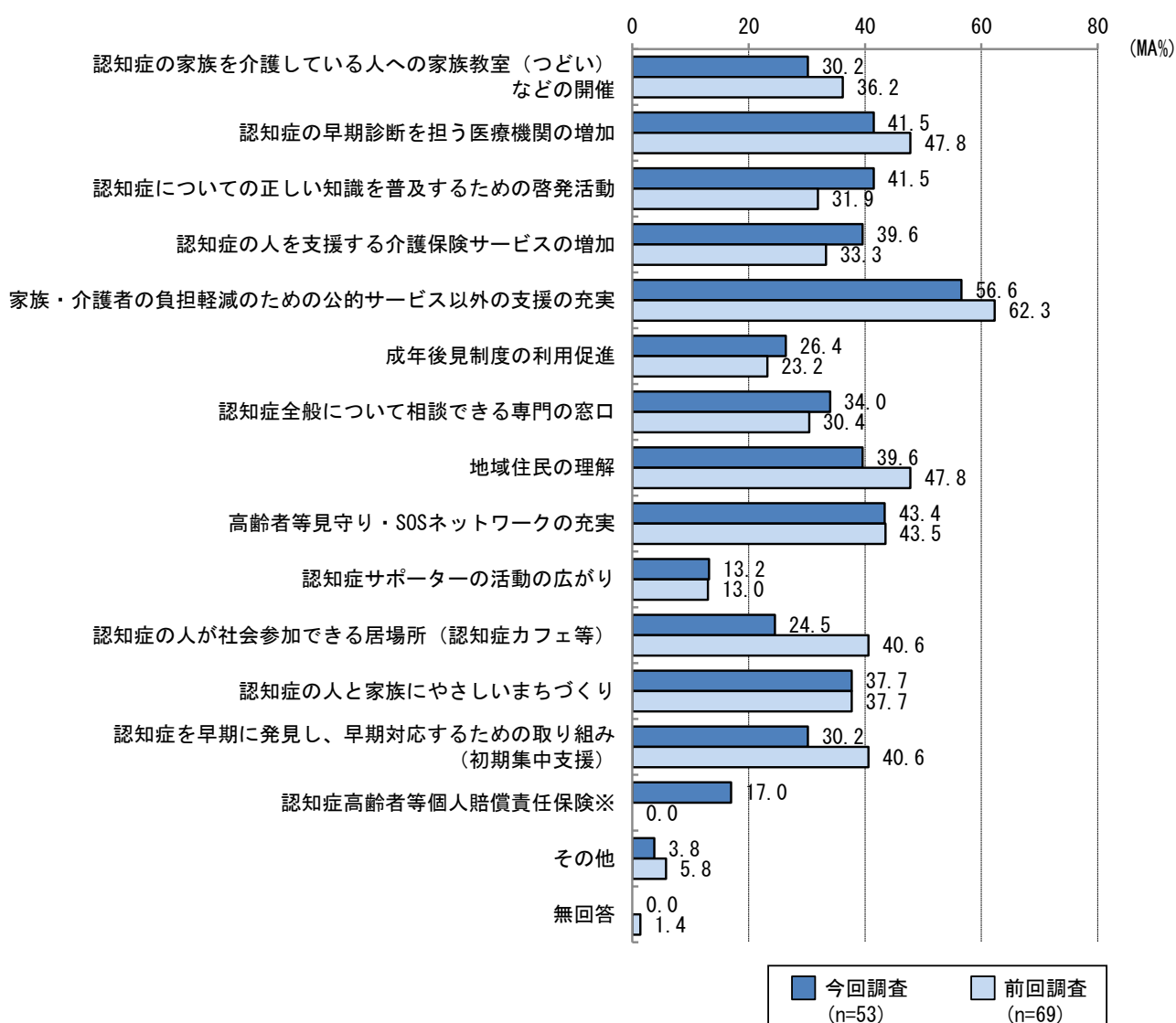


- [ケ 問 13] 認知症高齢者への支援に必要なことはどのようなことだと考えますか。
(〇はいくつでも)

認知症高齢者への支援に必要なことについては、「家族・介護者の負担軽減のための公的サービス以外の支援の充実」が56.6%と最も多く、次いで、「高齢者等見守り・SOS ネットワークの充実」が43.4%、「認知症の早期診断を担う医療機関の増加」、「認知症についての正しい知識を普及するための啓発活動」がそれぞれ41.5%となっています。

前回調査に比べて、「認知症についての正しい知識を普及するための啓発活動」が9.6ポイント増加し、「認知症の人が社会参加できる居場所（認知症カフェ等）」が16.1ポイント、「認知症を早期に発見し、早期対応するための取り組み（初期集中支援）」が10.4ポイント減少しています。

【認知症高齢者への支援において必要なこと (MA)】



6. 介護予防について

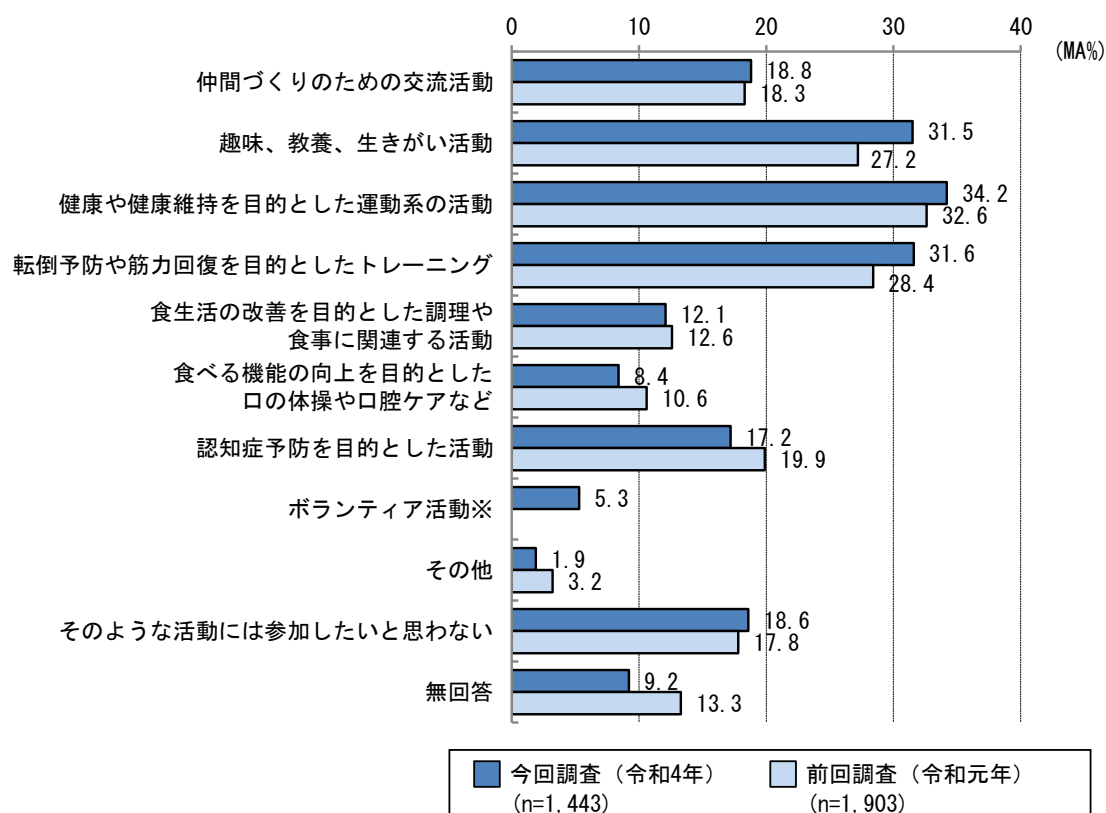
- [ニ 問 9.2] 介護予防に関して、今後も続けたい、または新たに参加・利用したい活動はありますか。(〇はいくつでも)

介護予防に関して参加・利用したい活動については、「健康や健康維持を目的とした運動系の活動」が34.2%と最も多く、次いで、「転倒予防や筋力回復を目的としたトレーニング」が31.6%、「趣味、教養、生きがい活動」が31.5%となっています。

前回調査に比べて、「趣味、教養、生きがい活動」が4.3ポイント、「転倒予防や筋力回復を目的としたトレーニング」が3.2ポイント増加しています。

性・年齢別にみると、男性・前期高齢者では「趣味、教養、生きがい活動」が40.7%と最も多く、男性・後期高齢者と女性・前期高齢者では「健康や健康維持を目的とした運動系の活動」が男性・後期高齢者で35.1%、女性・前期高齢者で38.5%と最も多く、女性・後期高齢者では「転倒予防や筋力回復を目的としたトレーニング」が33.6%と最も多くなっています。

【介護予防に関して、今後も続けたい、または新たに参加・利用したい活動(MA)】



(MA%)

	n	交流・仲間づくりのための活動	趣味・活動、教養、生きがい	健康的な運動の活用	健康や健康維持の目的	転倒予防や筋力回復	関連する活動や食事の目的	食生活の改善を目的	や口腔ケアなどの向上	目的とした機能の向上	食した活動の目的	認知症予防を目的	ボランティア活動	その他	参加しようと思わな	その活動には	無回答
全体	1443 100	271 18.8	454 31.5	493 34.2	456 31.6	175 12.1	121 8.4	248 17.2	77 5.3	27 1.9	269 18.6	133 9.2					
性・年齢	男性・前期高齢者	312 100	48 15.4	127 40.7	123 39.4	82 26.3	46 14.7	17 5.4	50 16.0	16 5.1	7 2.2	62 19.9	13 4.2				
	男性・後期高齢者	348 100	58 16.7	111 31.9	122 35.1	115 33.0	30 8.6	22 6.3	67 19.3	20 5.7	4 1.1	73 21.0	29 8.3				
	女性・前期高齢者	348 100	63 18.1	103 29.6	134 38.5	113 32.5	49 14.1	29 8.3	54 15.5	19 5.5	9 2.6	54 15.5	31 8.9				
	女性・後期高齢者	435 100	102 23.4	113 26.0	114 26.2	146 33.6	50 11.5	53 12.2	77 17.7	22 5.1	7 1.6	80 18.4	60 13.8				
圏域	東部	194 100	33 17.0	65 33.5	61 31.4	54 27.8	19 9.8	15 7.7	32 16.5	11 5.7	5 2.6	33 17.0	26 13.4				
	西部	237 100	49 20.7	76 32.1	85 35.9	74 31.2	30 12.7	18 7.6	50 21.1	13 5.5	6 2.5	36 15.2	19 8.0				
	野添	551 100	96 17.4	188 34.1	190 34.5	182 33.0	66 12.0	49 8.9	86 15.6	31 5.6	9 1.6	101 18.3	42 7.6				
	南部	458 100	92 20.1	123 26.9	155 33.8	145 31.7	59 12.9	38 8.3	79 17.2	22 4.8	7 1.5	98 21.4	46 10.0				
認定状況	一般高齢者	1263 100	241 19.1	418 33.1	457 36.2	384 30.4	158 12.5	101 8.0	220 17.4	72 5.7	22 1.7	228 18.1	108 8.6				
	要支援1、2	153 100	23 15.0	29 19.0	28 18.3	63 41.2	12 7.8	17 11.1	25 16.3	2 1.3	3 2.0	35 22.9	21 13.7				

7. 介護保険サービス・介護保険外サービスについて

(1) 介護保険サービスについて

① 介護保険サービスの満足度

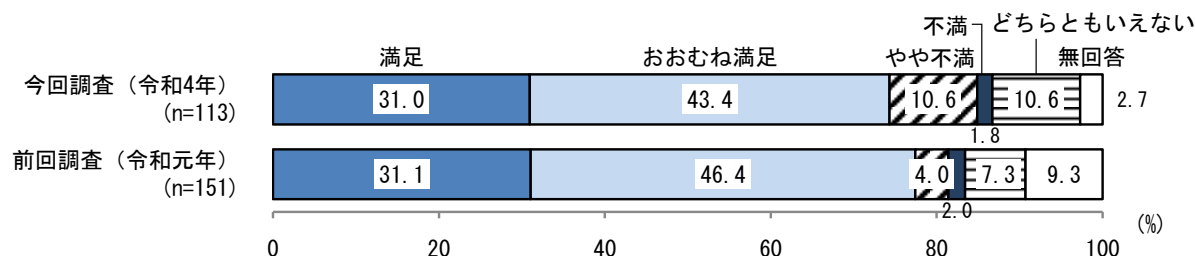
- [ニ 問 10.1-1] (介護保険サービスを利用している方のみ)

現在利用されているサービスに満足していますか。(○は1つ)

利用している介護保険サービスの満足度については、「満足」(31.0%)と「おおむね満足」(43.4%)を合わせた『満足』が合計74.4%、「不満」(1.8%)と「やや不満」(10.6%)を合わせた『不満』が合計12.4%となっています。

前回調査に比べて、『満足』が3.1ポイント減少し、『不満』が6.4ポイント増加しています。性・年齢別にみると、『満足』は女性・前期高齢者で83.3%と多くなっています。

【現在利用しているサービスの満足度】

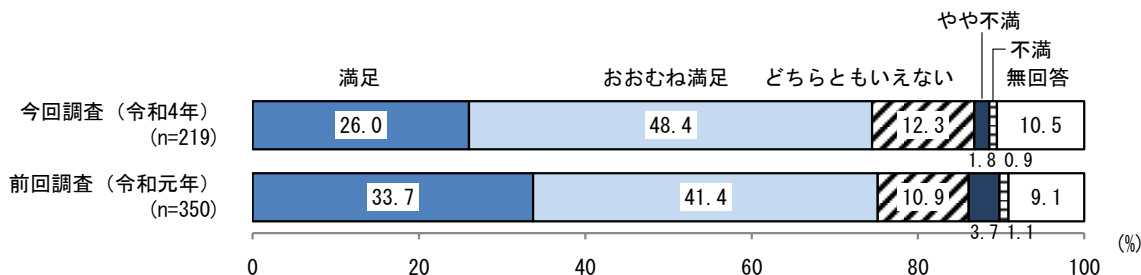


- [在 問 12] 全体として現在利用されているサービスに満足していますか。(○は1つ)

介護保険サービスの満足度については、「満足」26.0%と「おおむね満足」48.4%を合わせた『満足』が合計74.4%となっています。

要介護度別にみると、『満足』は要介護1、2で78.8%、要介護度3以上で77.6%と多くなっています。

【利用しているサービスの満足度】

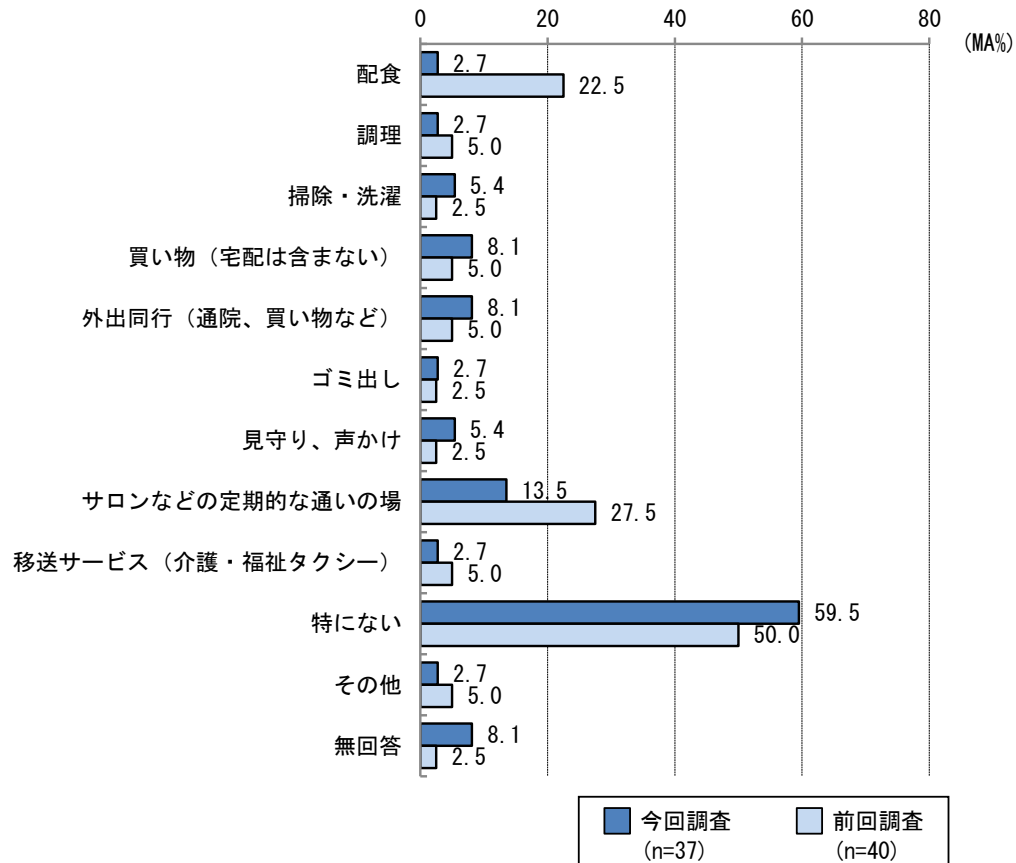


(2) あればよいと思う介護保険外のサービス

● [ケ 問9] 介護保険サービス以外にあれば良いと思うサービスは何ですか。(〇はいくつでも)

介護サービス以外で今後新規に展開したいサービスについては、「サロンなどの定期的な通いの場」が13.5%と最も多く、次いで、「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」がそれぞれ8.1%となっています。一方、「特にない」が59.5%と半数以上を占めています。

【介護保険サービス以外にあれば良いサービス(MA)】

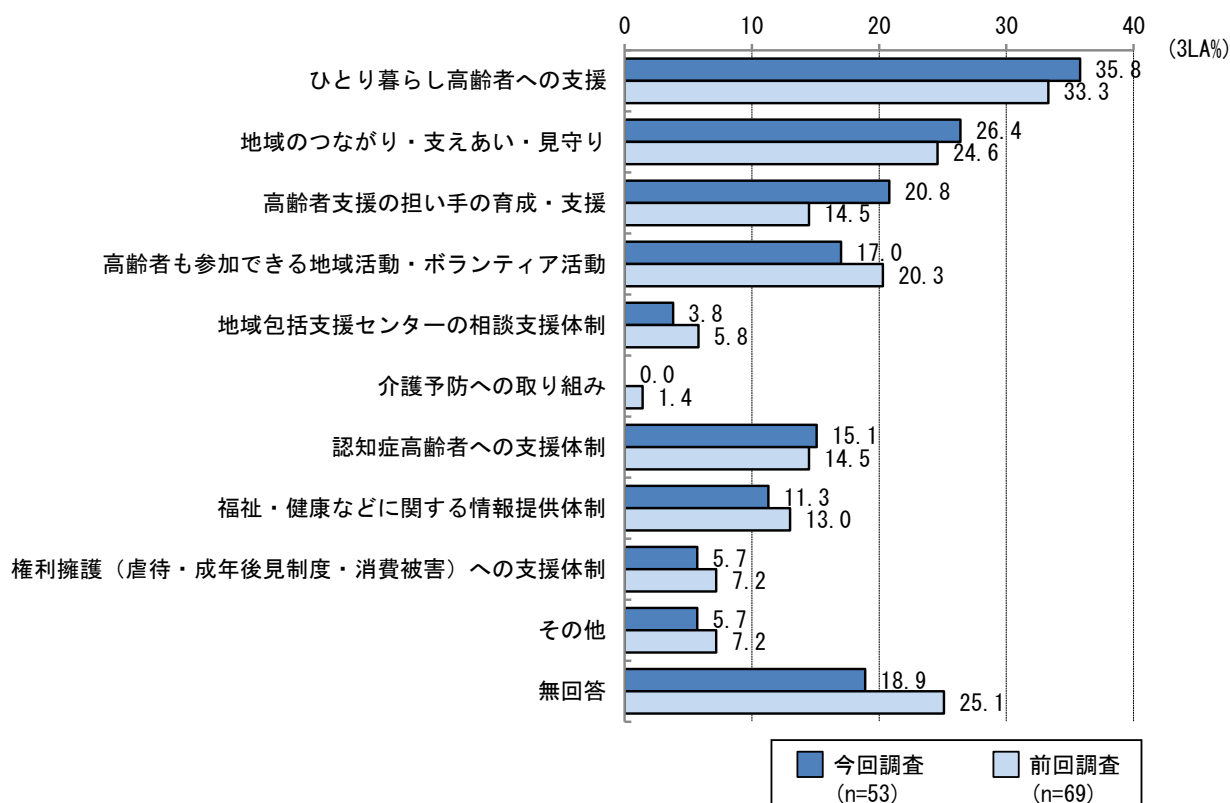


- [ケ 問 29] あなたが、ケアマネジャーの立場からみて、播磨町の高齢者に対する支援について、不足していると感じているものは何ですか。(〇は3つまで)

ケアマネジャーの立場からみて、播磨町の高齢者に対する支援について、不足していると感じているものについては、「ひとり暮らし高齢者への支援」が35.8%と最も多く、次いで、「地域のつながり・支えあい・見守り」が26.4%、「高齢者支援の担い手の育成・支援」が20.8%となっています。

前回調査に比べて、「高齢者支援の担い手の育成・支援」が6.3ポイント増加しています。

【播磨町の高齢者支援で不足しているもの(3LA)】



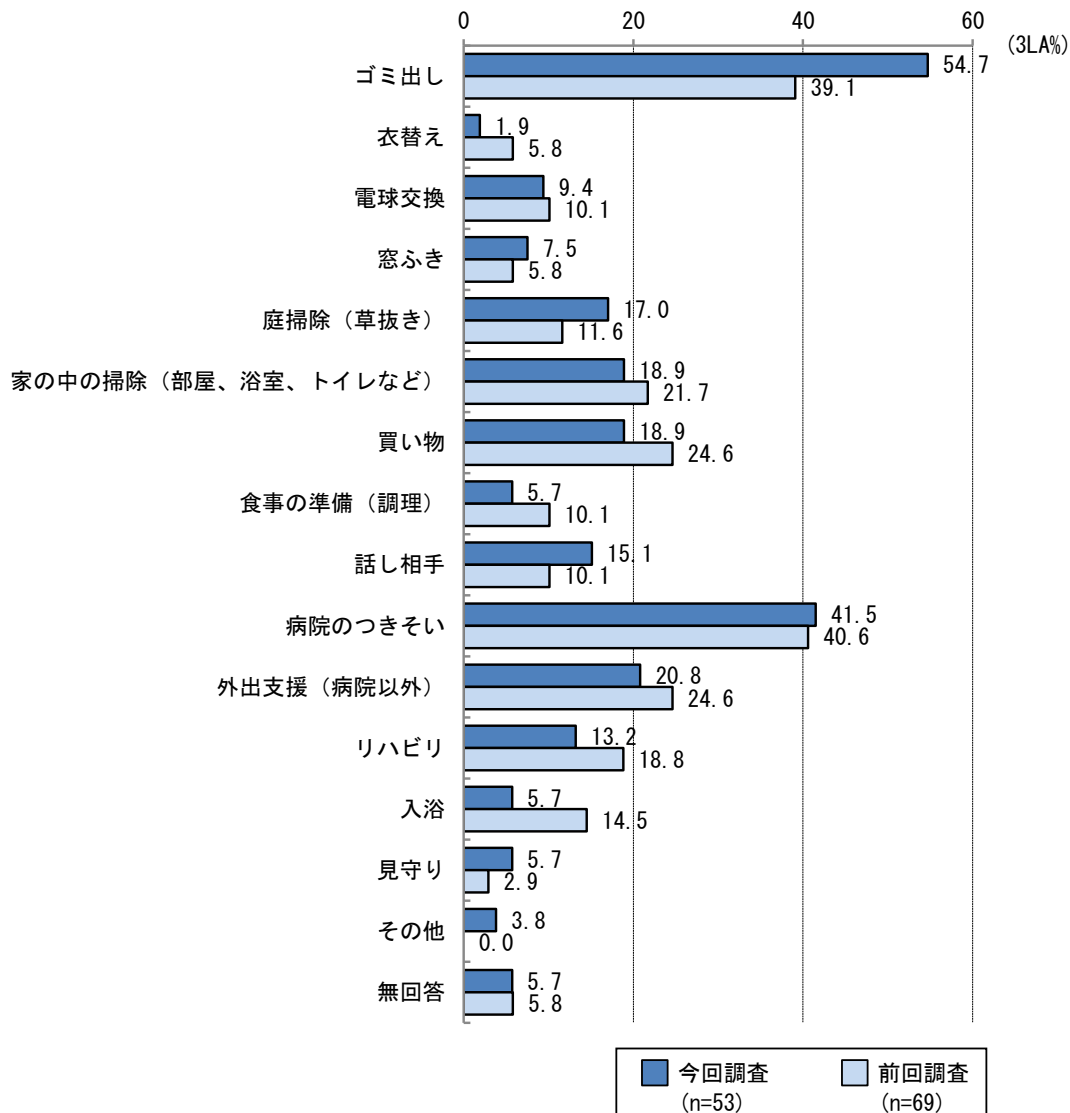
(3) 利用意向の高い支援について

● [ケ 問 30] 利用意向の高い支援は何ですか。(〇は3つまで)

要支援1・2、事業対象者の方に利用意向の高い支援は、「ゴミ出し」が54.7%と最も多く、次いで、「病院のつきそい」が41.5%、「外出支援（病院以外）」が20.8%となっています。

前回調査に比べて、「ゴミ出し」が15.6ポイント増加し、「入浴」が8.8ポイント減少しています。

【利用意向の高い支援(3LA)】

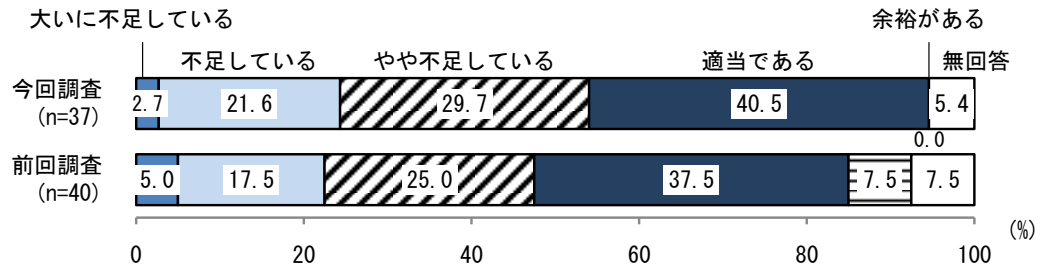


(4) 介護人材の確保について

- [事 問 15] 従業員の過不足状況はいかがですか。(1つに○)

従業員の過不足状況については、「大いに不足している」と「不足している」と「やや不足しているを合わせた『不足している』が54.0%と半数以上を占め、「適当である」が40.5%で、「余裕がある」の回答はありませんでした。

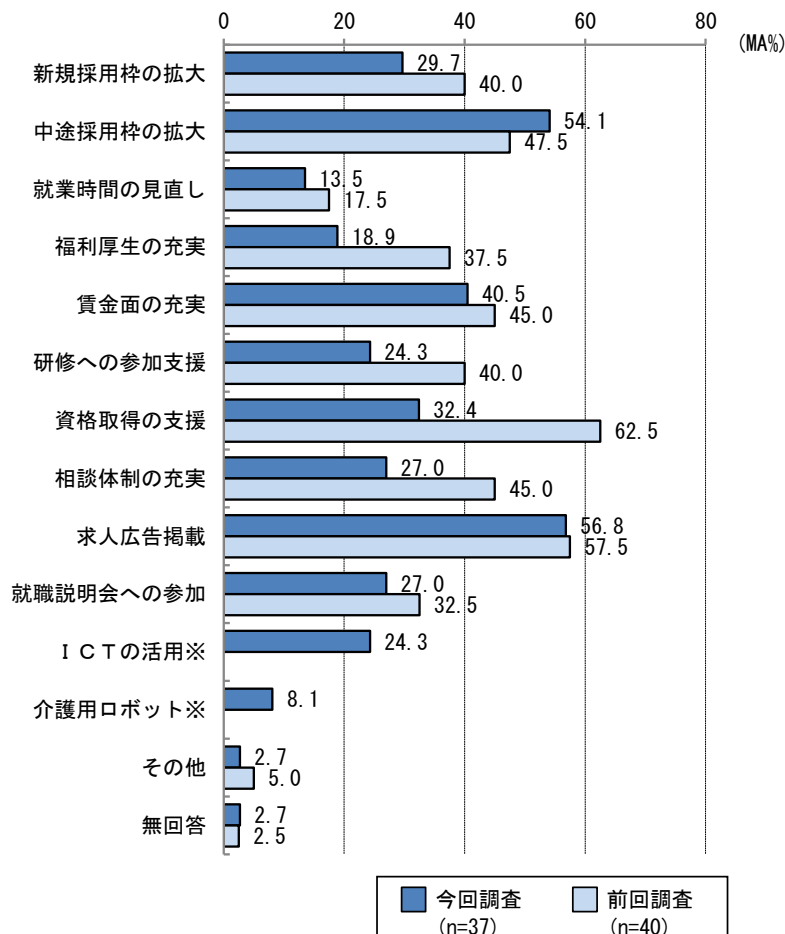
【従業員の過不足状況】



- [事 問 16] 貴事業所において、人材を確保するためにどのような取組を行っていますか。(いくつでも)

人材を確保するための取組については、「求人広告掲載」が56.8%と最も多く、次いで、「中途採用枠の拡大」が54.1%、「賃金面の充実」が40.5%となっています。

【人材を確保するための取り組み(MA)】



8. 将来について

(1) 播磨町に充実を希望する高齢者施策について

- [二問 11.5] [在問 28] あなたは播磨町にどのような高齢者施策の充実を希望しますか。
(○はいくつでも)

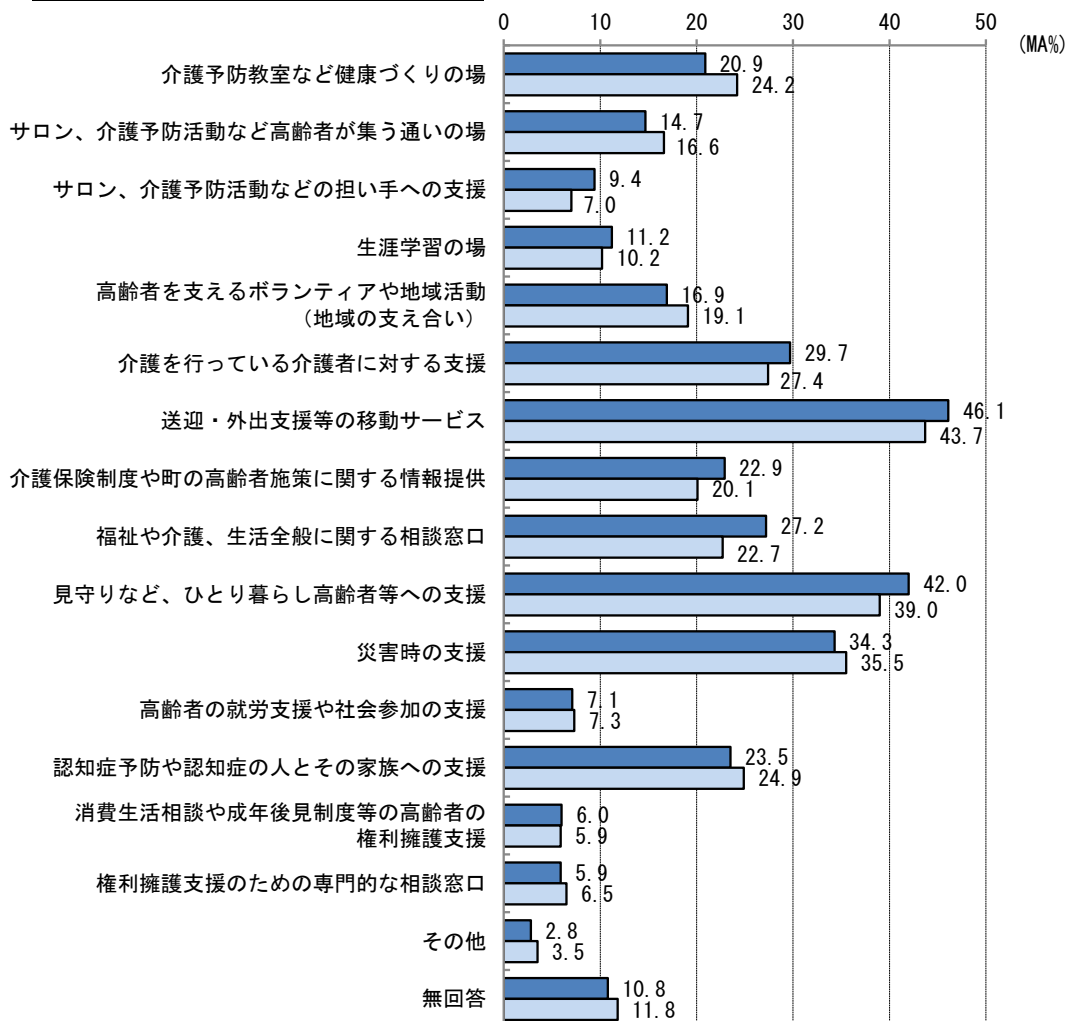
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

播磨町に希望する高齢者施策については、「送迎・外出支援等の移動サービス」が46.1%と最も多く、次いで、「見守りなど、ひとり暮らし高齢者等への支援」が42.0%、「災害時の支援」が34.3%となっています。

前回調査に比べて、「福祉や介護、生活全般に関する相談窓口」が4.5ポイント増加しています。性・年齢別にみると、男性・前期高齢者では、「見守りなど、ひとり暮らし高齢者等への支援」(46.5%)、「介護を行っている介護者に対する支援」(37.5%)、「高齢者を支えるボランティアや地域活動(地域の支え合い)」(20.5%)などが他の層よりも多くなっています。女性・前期高齢者では、「送迎・外出支援等の移動サービス」(51.7%)、「福祉や介護、生活全般に関する相談窓口」(32.2%)で他の層よりも多くなっています。

【播磨町に充実を希望する高齢者施策(MA)】

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査



■ 今回調査 (令和4年) (n=1,443) □ 前回調査 (令和元年) (n=1,903)

在宅介護実態調査

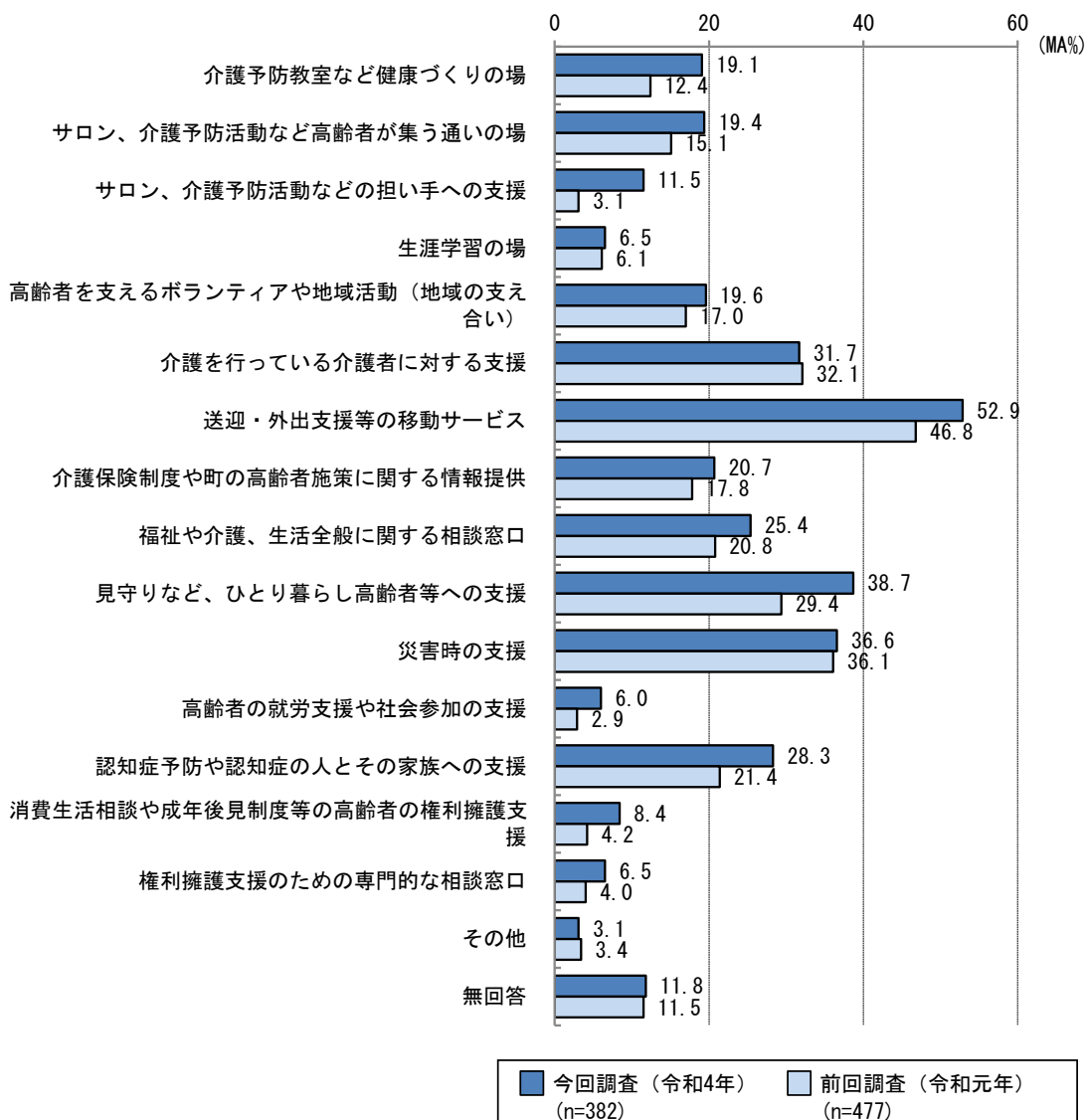
播磨町に希望する高齢者施策については、「送迎・外出支援等の移動サービス」が52.9%と最も多く、次いで、「見守りなど、ひとり暮らし高齢者等への支援」が38.7%、「災害時の支援」が36.6%となっています。

前回調査に比べて、「見守りなど、ひとり暮らし高齢者等への支援」が9.3ポイント、「サロン、介護予防活動などの担い手への支援」が8.4ポイント増加しています。

要介護度別にみると、要介護1、2では「介護予防教室など健康づくりの場」が23.9%、「認知症予防や認知症の人とその家族への支援」が34.3%、要介護3以上では「介護を行っている介護者に対する支援」が40.0%と多くなっています。

【播磨町に充実を希望する高齢者施策(MA)】

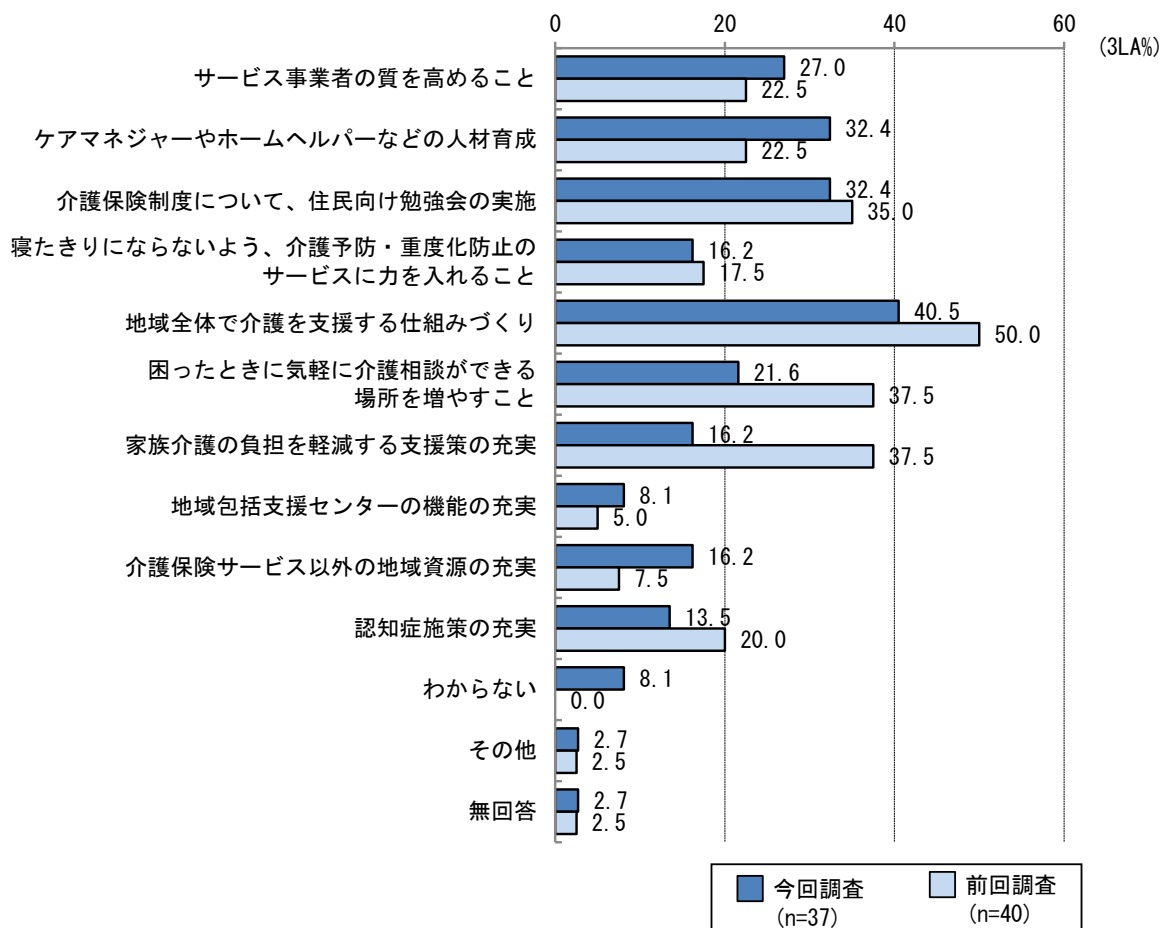
在宅生活介護実態調査



- [事 問 26] 「介護保険制度」全体をよりよくするための環境整備として、播磨町が力を入れるべきことは次のうちどれだと思いますか。(3つまで)

「介護保険制度」全体をよりよくするために播磨町が力を入れるべきことは、「地域全体で介護を支援する仕組みづくり」が40.5%と最も多く、次いで、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材育成」、「介護保険制度について、住民向け勉強会の実施」がそれぞれ32.4%となっています。

【「介護保険制度」全体をよりよくするための環境整備として播磨町が力を入れるべきこと(3LA)】



(2) 将来の生活について

- [ニ 問 11.1] [在 問 24] あなたは将来について、どのような生活を希望しますか。
(○は1つ)

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

将来どのような生活を希望するかについては、「できる限り在宅で暮らしたい」が77.3%と最も多くなっています。

前回調査に比べて、「できる限り在宅で暮らしたい」が9.8ポイント増加しています。

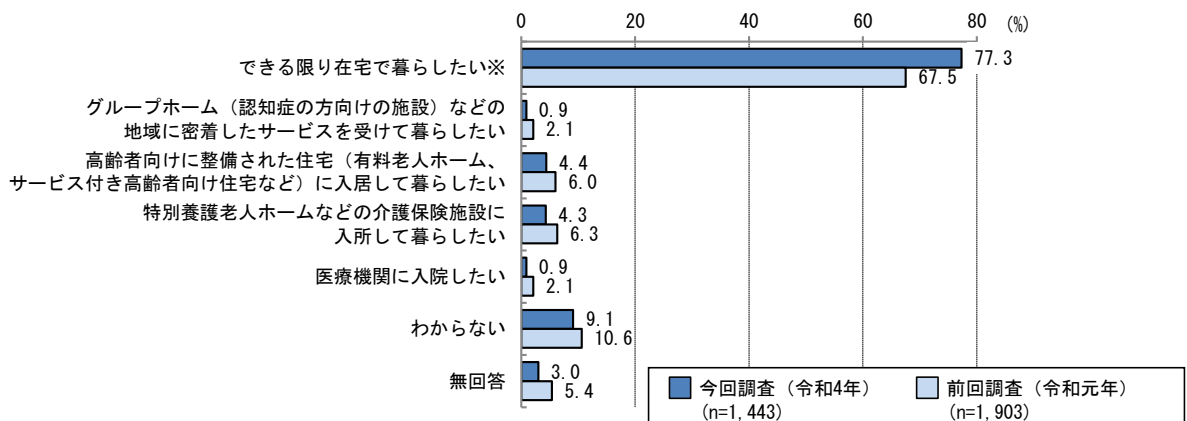
在宅生活介護実態調査

将来どのような生活を希望するかについては、「できる限り在宅で暮らしたい」が69.6%と最も多くなっています。

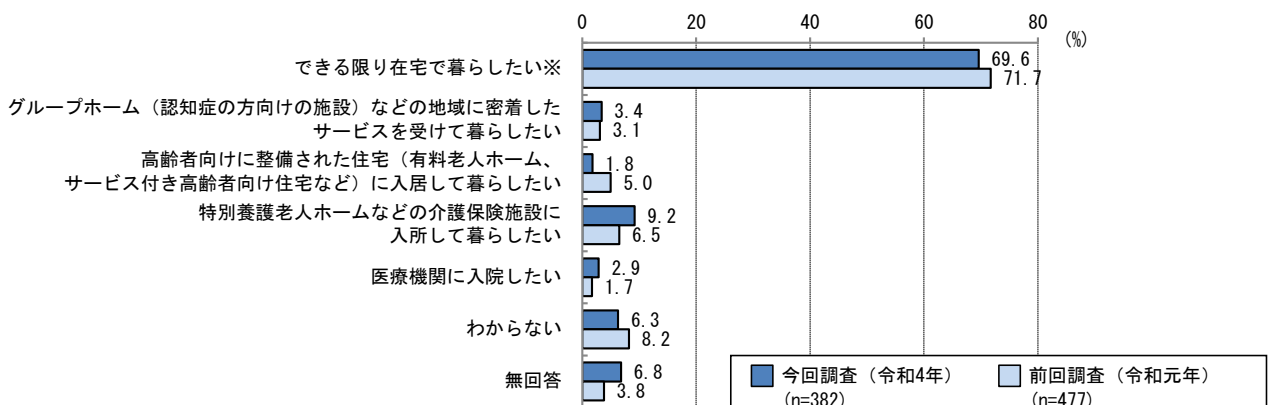
要介護度別にみると、要介護1、2では「グループホーム（認知症の方向けの施設）などの地域に密着したサービスを受けて暮らしたい」が5.2%とやや多く、世帯類型別にみると、単身世帯で「高齢者向けに整備された住宅（有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅など）に入居して暮らしたい」が3.0%、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所して暮らしたい」が12.1%とやや多くなっています。

【将来希望する生活】

日常生活圏域ニーズ調査



在宅生活介護実態調査



※前回調査では、「介護保険サービスを利用せずに、配偶者や子どもなど、家族や親族の介護を受けながら、できる限り在宅で暮らしたい」、「家族や親族の介護を受けずに介護保険サービスを利用しながら、できる限り在宅で暮らしたい」、「家族や親族などの介護と介護保険サービスを組み合わせて、できる限り在宅で暮らしたい」

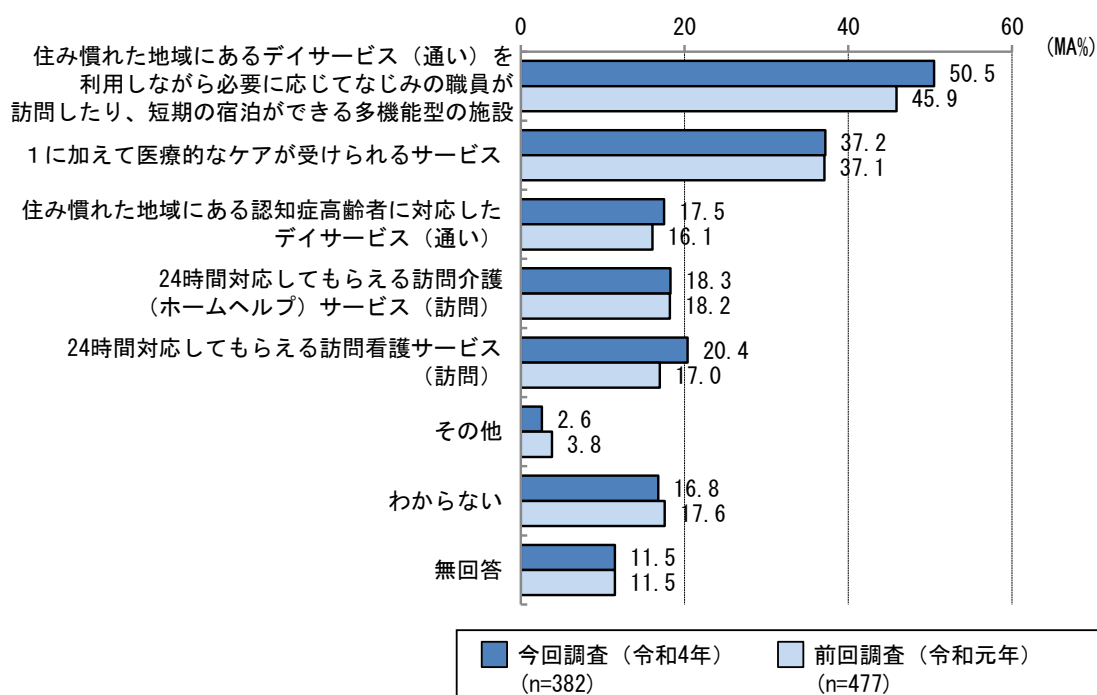
- [在 問 14] 調査の対象者が、在宅での生活を続けるためにどのような介護サービスが必要ですか。(〇はいくつでも)

在宅生活の継続に必要な介護サービスは、「住み慣れた地域にあるデイサービス（通い）を利用しながら必要に応じてなじみの職員が訪問したり、短期の宿泊ができる多機能型の施設」が50.5%と最も多く、次いで、「1に加えて医療的なケアが受けられるサービス」が37.2%、「24時間対応してもらえる訪問看護サービス（訪問）」が20.4%となっています。

前回調査に比べて、「住み慣れた地域にあるデイサービス（通い）を利用しながら必要に応じてなじみの職員が訪問したり、短期の宿泊ができる多機能型の施設」は4.6ポイント増加しています。

要介護度別にみると、「住み慣れた地域にあるデイサービス（通い）を利用しながら必要に応じてなじみの職員が訪問したり、短期の宿泊ができる多機能型の施設」は、要介護1、2で61.2%と多く、「1に加えて医療的なケアが受けられるサービス」は、要介護3以上で50.8%と多くなっています。また、「24時間対応してもらえる訪問看護サービス（訪問）」は、要介護3以上で29.2%、世帯累計別には単身世帯で24.2%と多くなっています。

【在宅で生活を続けるために必要な介護サービス(MA)】



- [在 問 6] 今後の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス（現状利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援、サービスを含む）について、ご回答ください。（〇はいくつでも）

在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービスは、「外出同行（通院・買い物など）」が31.9%と最も多く、次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が29.6%、「掃除・洗濯」が22.3%となっています。

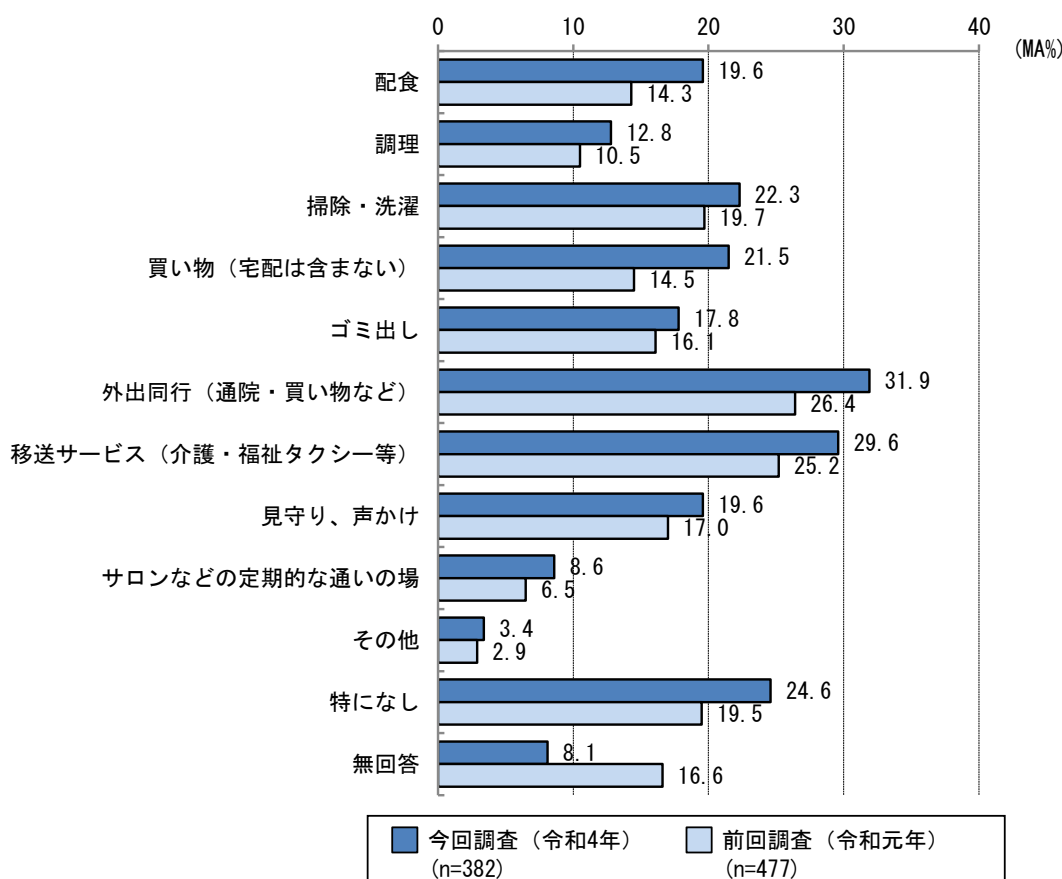
前回調査に比べて、「外出同行（通院・買い物など）」で5.5ポイント、「配食」で5.3ポイント、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」で4.4ポイント増加しています。

性・年齢別にみると、男性・前期高齢者では「特になし」が47.6%と最も多く、男性・後期高齢者では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が37.4%、女性・前期高齢者では「掃除・洗濯」が33.3%、女性・後期高齢者では「外出同行（通院・買い物など）」が33.6%と多くなっています。

要介護度別にみると、要支援認定者では「掃除・洗濯」が30.5%と最も多く、「ゴミ出し」も25.3%と多くなっています。要介護1、2では「見守り、声かけ」が24.6%、「サロンなどの定期的な通いの場」が14.9%と、他の区分に比べて多くなっています。

世帯類型別にみると、「ゴミ出し」が単身世帯で25.8%と多くなっています。

【在宅生活の継続に必要な支援・サービス(MA)】



(3) 介護離職

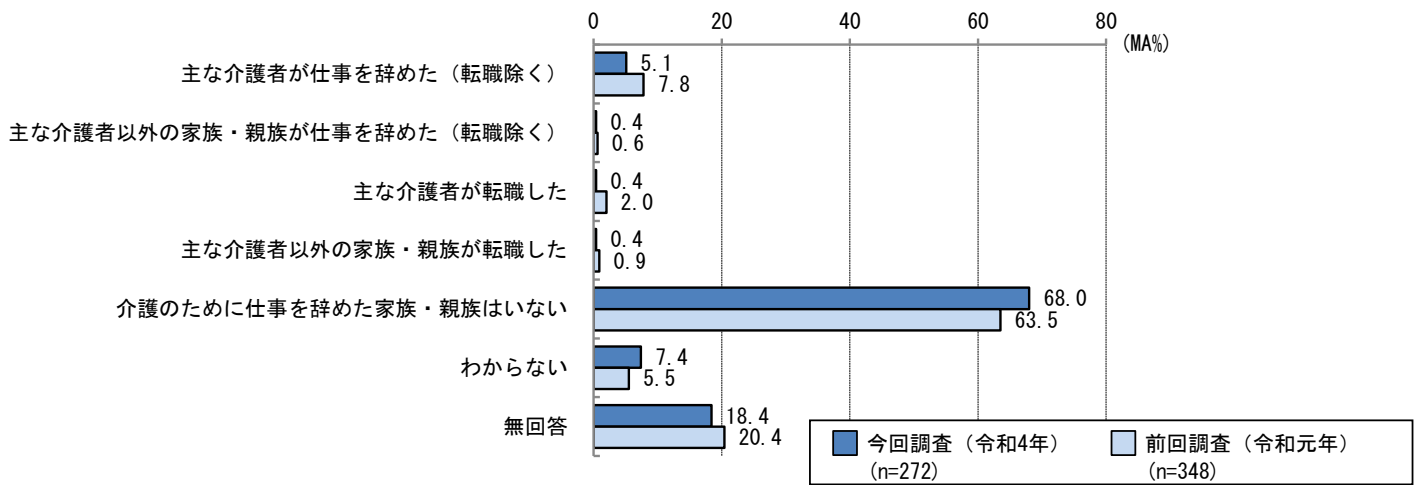
① 介護離職者の有無

- [在 問 29] ご家族やご親族の中で、調査の対象者の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。(現在働いているかどうかや現在の勤務形態は問いません)
(○はいくつでも)

介護のための離職の有無については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が68.0%と最も多く、前回調査に比べて4.5ポイント増加しています。

「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」は、単身世帯で7.0%、主な介護者がパートタイムで働いている方で12.8%みられます。

【介護離職(MA)】



		n	くを 主 な 介 護 者 が 辞 め た 事 (転 職 除 く)	く を 家 主 な 介 護 者 以 外 の 家 族 ・ 親 族 が 辞 め た 事 (転 職 除 く)	し 主 な 介 護 者 が 転 職 し た	し 家 族 ・ 親 族 が 転 職 し た	族 を 介 護 の た め に 辞 め た 家 族 ・ 親 族 が 以 外 の 家 族 ・ 親 族 に 関 する 事	わ か ら な い	無 回 答
全体		272	14	1	1	1	185	20	50
		100	5.1	0.4	0.4	0.4	68.0	7.4	18.4
性・年齢	男性・前期高齢者	10	0	0	0	0	8	2	0
		100	0	0	0	0	80.0	20.0	0
	男性・後期高齢者	92	6	0	1	0	58	9	18
		100	6.5	0	1.1	0	63.0	9.8	19.6
	女性・前期高齢者	12	1	0	0	0	7	3	1
	100	8.3	0	0	0	58.3	25.0	8.3	
	158	7	1	0	1	112	6	31	
	100	4.4	0.6	0	0.6	70.9	3.8	19.6	
要介護度	要支援1、2	105	5	0	0	0	63	4	33
		100	4.8	0	0	0	60.0	3.8	31.4
	要介護1、2	115	6	0	1	1	88	9	10
	100	5.2	0	0.9	0.9	76.5	7.8	8.7	
	49	3	0	0	0	33	7	6	
	100	6.1	0	0	0	67.3	14.3	12.2	
世帯類型	単身世帯	86	6	0	0	1	63	3	13
		100	7.0	0	0	1.2	73.3	3.5	15.1
	夫婦のみの世帯	98	4	0	1	0	58	10	25
	100	4.1	0	1.0	0	59.2	10.2	25.5	
	84	4	1	0	0	60	7	12	
	100	4.8	1.2	0	0	71.4	8.3	14.3	
の主な 就労 状況	フルタイムで働いている	57	1	0	0	1	49	1	5
		100	1.8	0	0	1.8	86.0	1.8	8.8
	パートタイムで働いている	39	5	0	1	0	29	1	3
	100	12.8	0	2.6	0	74.4	2.6	7.7	
	142	8	1	0	0	98	15	20	
	100	5.6	0.7	0	0	69.0	10.6	14.1	

② 働き方の調整

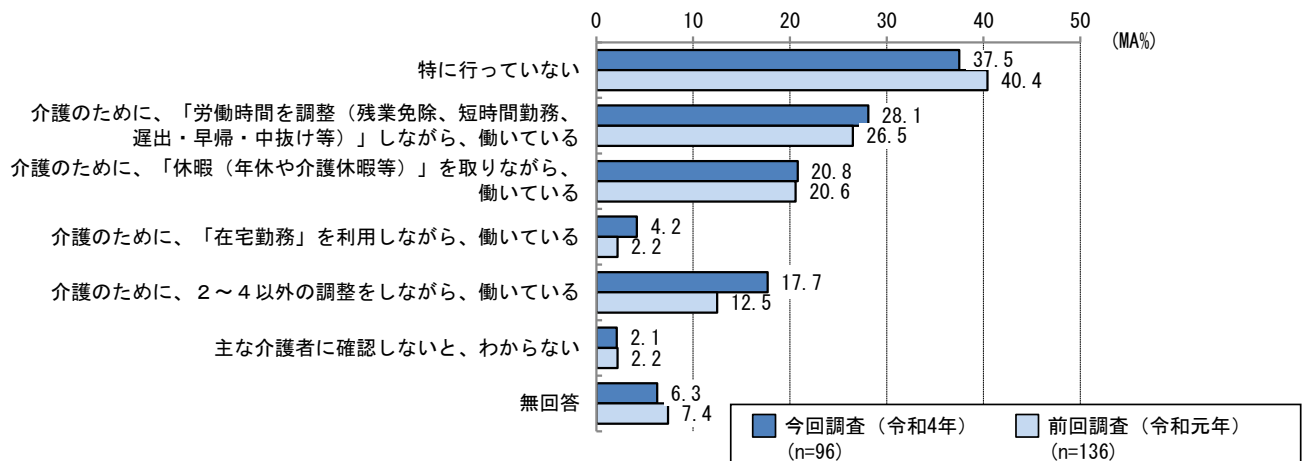
- [在問37] 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか。(○はいくつでも)

主な介護者の方の働き方の調整については、「特に行っていない」が37.5%と最も多く、次いで、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が28.1%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が20.8%となっています。

要介護度別にみると、要支援認定者では「特に行っていない」が50.0%と半数を占めていますが、要介護1、2、要介護3以上では労働時間の調整、休暇の取得などを行っている人が3割前後みられます。

「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」を主な介護者の就労継続見込別にみると、「問題あるが、何とか続けていける」で39.3%、「続けていくのは、やや難しい」で33.3%と多くなっています。

【働き方の調整(MA)】



③ 今後の介護と仕事の両立

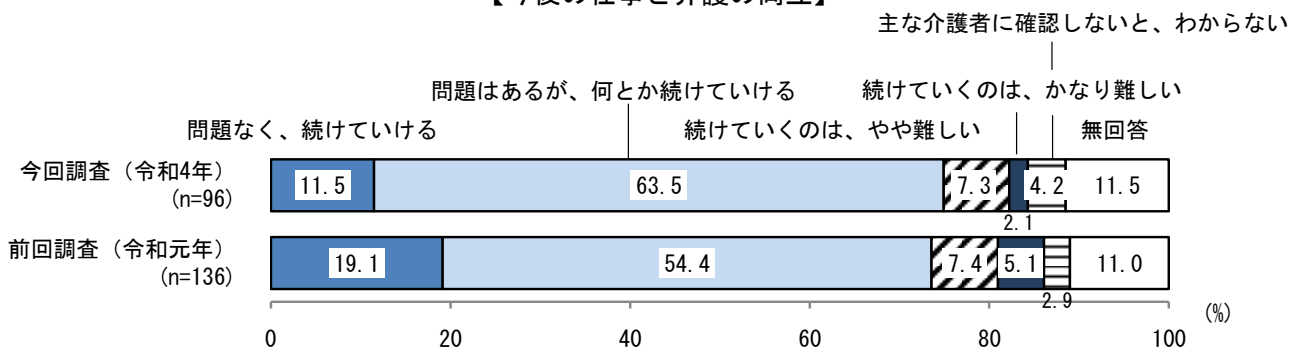
- [在問39] 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(○は1つ)

主な介護者の就労継続の可否については、「問題はあるが、何とか続けていける」が63.5%と最も多く、次いで、「問題なく、続けていける」が11.5%で、『続けていける』と回答した人は合計75.0%となっています。

前回調査に比べて、「問題なく、続けていける」は7.6ポイント減少しています。

『続けていける』は、要介護度別には要介護1、2で77.0%、主な介護者の就労状況別にはパートタイムで働いている方で79.5%と、他の区分に比べて多くなっています。

【今後の仕事と介護の両立】



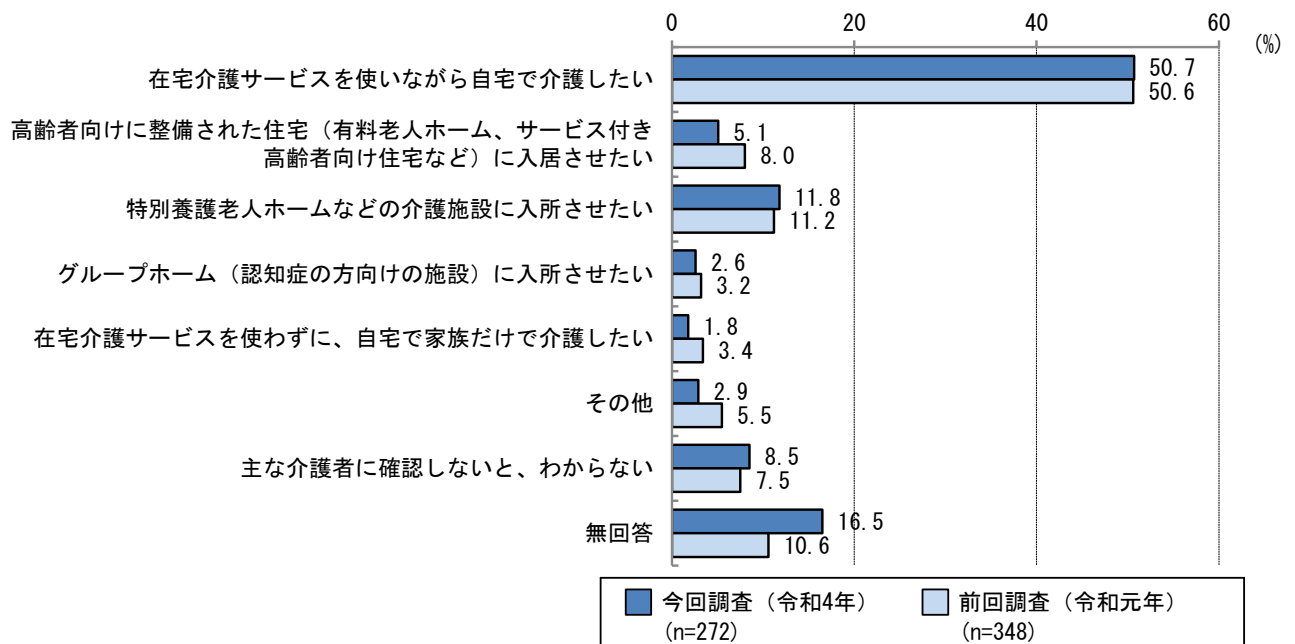
(4) 今後の介護

- [在 問 43] 主な介護者の方は、今後の介護をどのようにしていきたいとお考えですか。(○は1つ)

今後の介護をどのようにしていきたいかについては、「在宅介護サービスを使いながら自宅で介護したい」が50.7%と最も多く、次いで、「特別養護老人ホームなどの介護施設に入所させたい」が11.8%となっています。

「高齢者向けに整備された住宅（有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅など）に入居させたい」は、要介護3以上で8.2%、「グループホーム（認知症の方向けの施設）に入所させたい」は要介護1、2で6.1%みられます。

【今後の介護への考え】



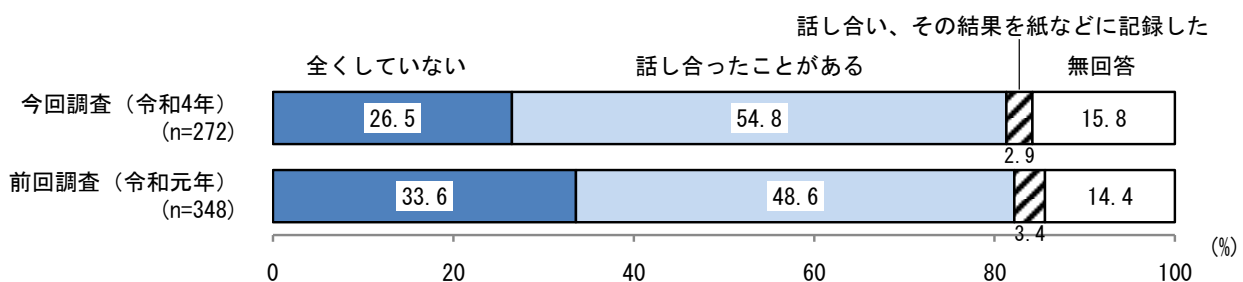
- [在 問 44] 問 43 について調査の対象者と話し合いをしていますか。(○は1つ)

今後の介護について調査の対象者と話し合いをしているかについては、「話し合ったことがある」が54.8%と多く、「全くしていない」が26.5%となっています。

前回調査に比べて、「話し合ったことがある」は6.2ポイント増加しています。

「話し合ったことがある」は、要介護1、2で63.5%と、他の区分に比べて多くなっています。

【今後の介護への考えについて調査対象者との話し合い】



(5) 成年後見制度について

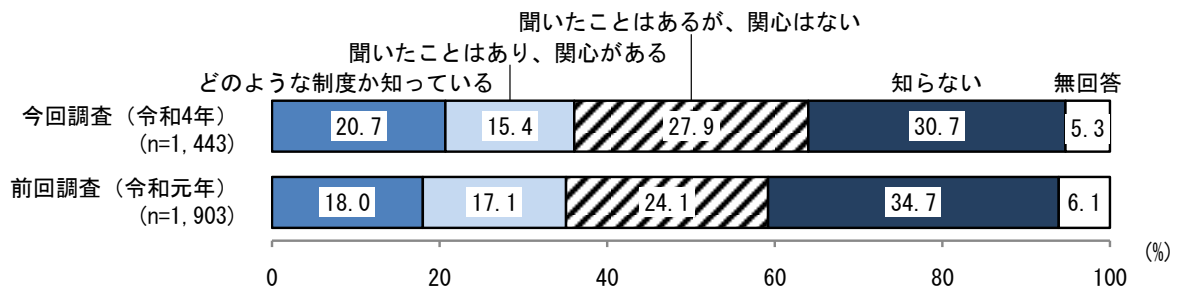
● [ニ 問 8.7] 成年後見制度を知っていますか。(○は1つ)

成年後見制度については、「知らない」が30.7%と最も多く、次いで、「聞いたことはあるが、関心はない」が27.9%、「どのような制度か知っている」が20.7%、「聞いたことはあり、関心がある」が15.4%となっています。

前回調査に比べて、「どのような制度か知っている」が2.7ポイント、「聞いたことはあるが、関心はない」が3.8ポイント増加しています。

性・年齢別にみると、女性・前期高齢者で「どのような制度か知っている」が25.9%と他の層よりも多くなっています。

【成年後見制度の周知状況】



(6) 地域包括支援センターについて

- [ニ 問 8.4] [在 問 15] 播磨町地域包括支援センターが高齢者総合相談や認知症の相談窓口であることを知っていますか。また、利用したことはありますか。(○は1つ)

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

播磨町地域包括支援センターが高齢者総合相談や認知症の相談窓口であることについての認知は、「知っているし、利用したこともある」(6.4%)、「知っているが、利用したことはない」(30.8%)を合わせた『知っている』が合計37.2%、「知らない」が59.7%となっています。

前回調査に比べて、『知っている』は4.3ポイント減少しています。

性・年齢別にみると、男性・前期高齢者で「知らない」が68.9%と多くなっています。

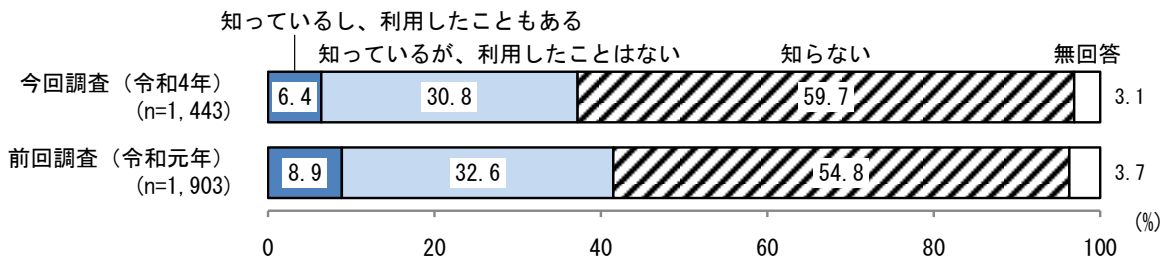
在宅介護実態調査

播磨町地域包括支援センターが相談窓口であることを知っているかについては、「知っているし、利用したこともある」が39.3%と最も多く、次いで、「知っているが利用したことはない」が29.3%、「知らない」が25.7%となっています。

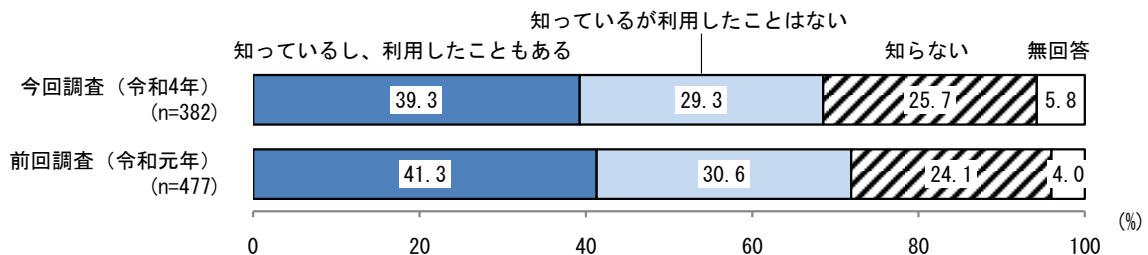
性・年齢別にみると、男性・前期高齢者では「知らない」が52.4%と多くなっています。

【播磨町地域包括支援センターが高齢者総合相談や認知症の相談窓口であることの周知状況と利用状況】

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査



在宅介護実態調査

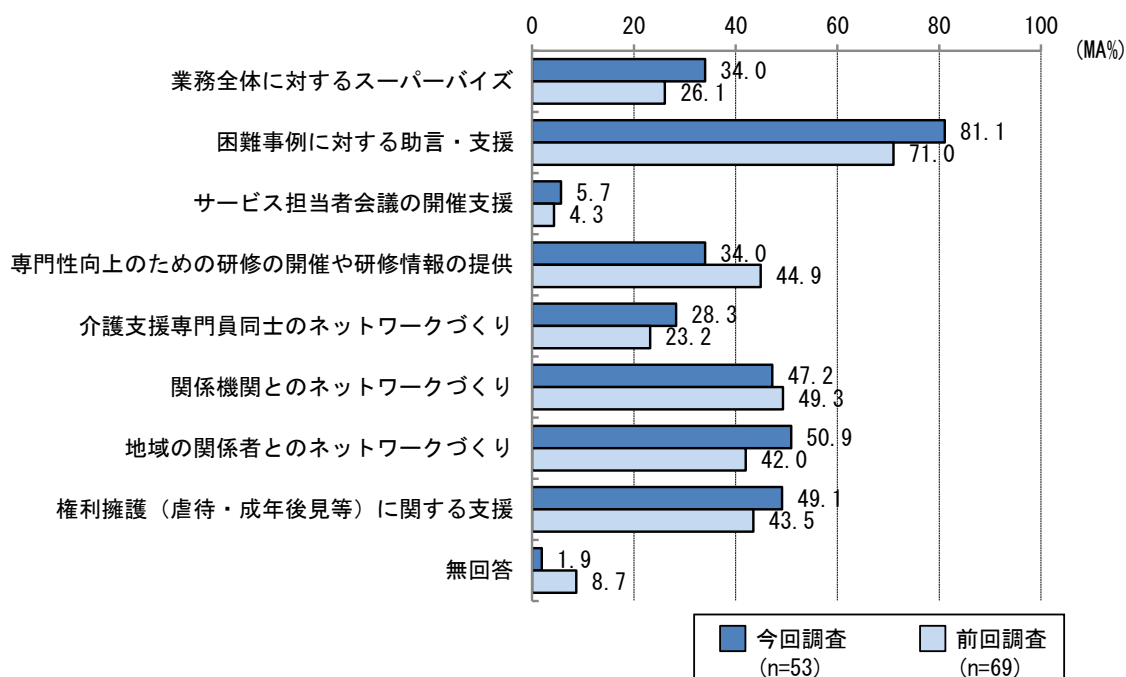


- [ケ 問 19] 播磨町地域包括支援センターにどのような役割を期待していますか。
(〇はいくつでも)

播磨町地域包括支援センターに期待することは、「困難事例に対する助言・支援」が81.1%と最も多く、次いで、「地域の関係者とのネットワークづくり」が50.9%、「権利擁護（虐待・成年後見等）に関する支援」が49.1%、「関係機関とのネットワークづくり」が47.2%となっています。

前回調査に比べて、「困難事例に対する助言・支援」が10.1ポイント、「地域の関係者とのネットワークづくり」が8.9ポイント、「業務全体に対するスーパーバイズ」が7.9ポイント増加し、「専門性向上のための研修の開催や研修情報の提供」が10.9ポイント減少しています。

【地域包括支援センターに期待する役割(MA)】



9. 医療介護連携について

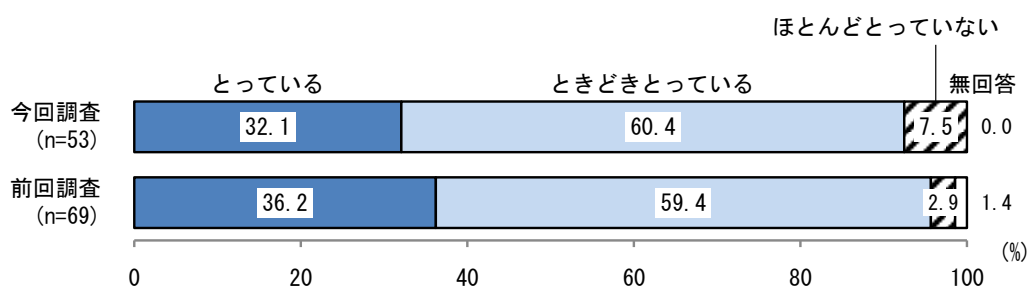
(1) 医療との連携について

- [ケ 問 15] 利用者の病状や健康状態について主治医と連絡をとっていますか。(○は1つ)

利用者の病状や健康状態について主治医と連絡をとっているかについては、「とっている」と「ときどきとっている」を合わせた『とっている』が92.5%、「ほとんどとっていない」が7.5%となっています。

前回調査に比べて、『とっている』が3.1ポイント減少しています。

【主治医との連絡の有無】

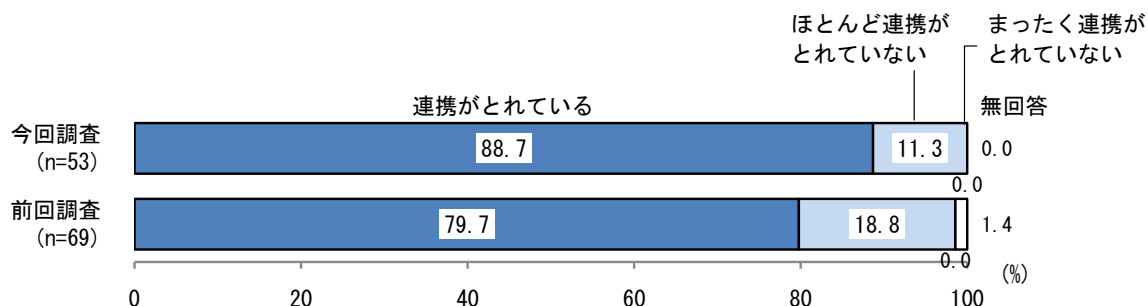


- [ケ 問 16] あなたが医療機関（主治医）との連携が必要だと思うケースに遭遇した場合、実際に医療機関（主治医）と連携が図られていますか。(○は1つ)

医療機関（主治医）との連携が必要だと思うケースに遭遇した場合、実際に医療機関（主治医）と連携が図られているかについては、「連携がとれている」が88.7%、「ほとんど連携がとれていない」が11.3%となっています。

前回調査に比べて、「連携がとれている」が9.0ポイント増加しています。

【主治医との連携の有無】

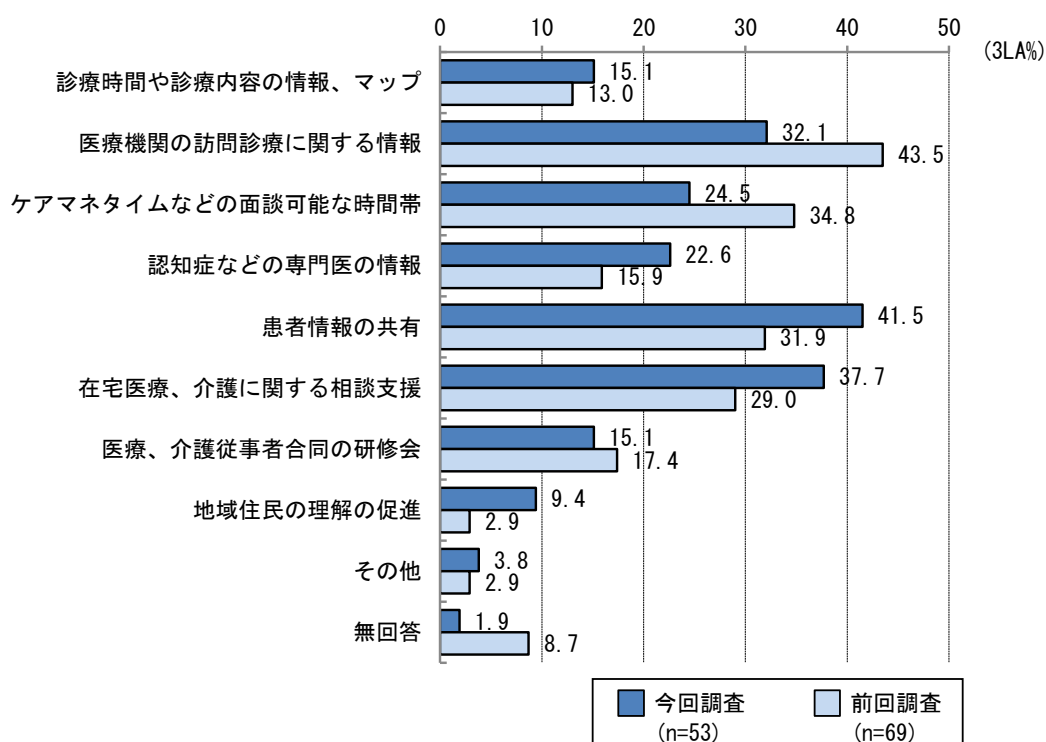


- [ケ 問 17] あなたが医療と介護の連携で最も不足していると感じることは何だと思えますか。(〇は3つまで)

医療と介護の連携で最も不足していると感じることについては、「患者情報の共有」が41.5%と最も多く、次いで、「在宅医療、介護に関する相談支援」が37.7%、「医療機関の訪問診療に関する情報」が32.1%となっています。

前回調査に比べて、「患者情報の共有」が9.6ポイント、「在宅医療、介護に関する相談支援」が8.7ポイント増加し、「医療機関の訪問診療に関する情報」が11.4ポイント、「ケアマネタイムなどの面談可能な時間帯」が10.3ポイント減少しています。

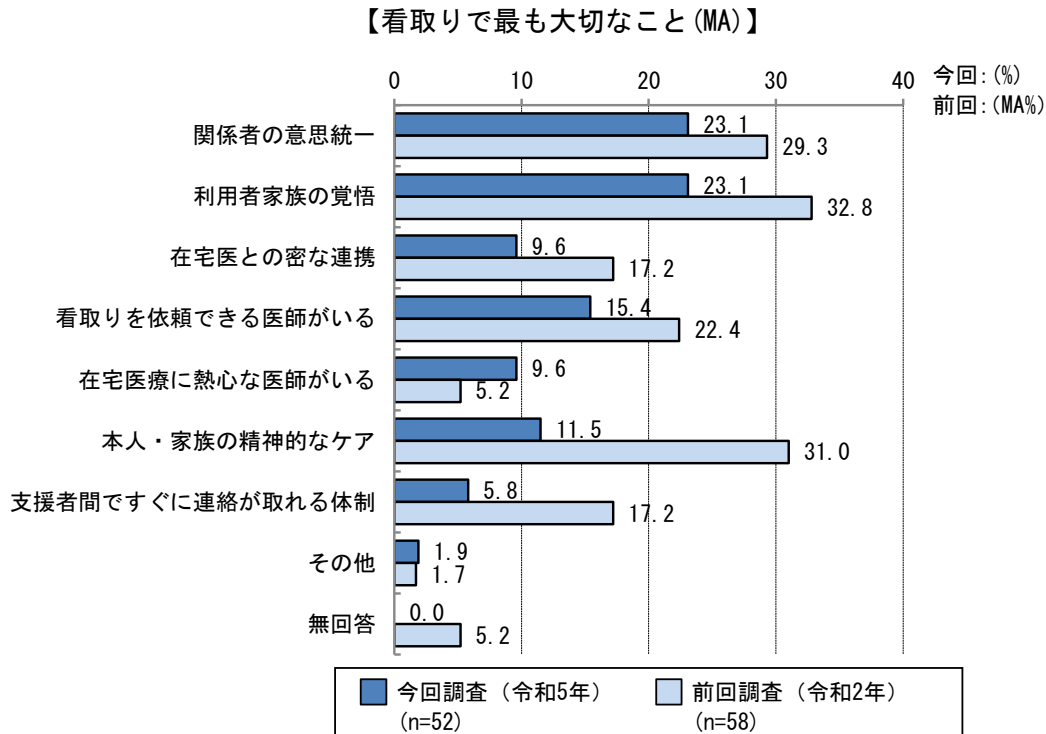
【医療介護連携において不足していること(3LA)】



(2) 看取り介護について

- [ケ 問 14-2] 看取りで最も大切なのは次のうちどれだと感じますか。(○は1つ)

看取りで最も大切なのは、「関係者の意思統一」、「利用者家族の覚悟」がそれぞれ 23.1%と最も多く、次いで、「看取りを依頼できる医師がいる」が 15.4%となっています。



- [ケ 問 14-3] どのような条件がそろえば、看取り介護ができると思いますか。(○はいくつでも)

看取り介護の経験が「ない」と回答された方は1名のみで、どのような条件がそろえば、看取り介護ができると思うかについては、「医師との24時間の連絡体制の整備」と回答しています。

